



# 人材・組織の育成及び関係人口に関する 検討会(第1回)

前神 有里 Maegami yuri

(一財)地域活性化センター人材育成プロデューサー





人材育成は  
タテ割りから  
ヨコ串へ？  
ヨコは個性豊か  
横串よりも  
横結 (Weak Ties)

タテヨコだけ？  
あいだもつなぐ  
そんな人が  
必要です

# くらしの変化

家庭、地域、職場の「自助」「互助」のゆらぎ  
進学、就職、老後、人生が一本道でなくなった

## 【家庭】

世帯の増加(単身・ひとり親・高齢者夫婦・老親と未婚の子)

## 【職場】

非正規雇用、フリーランス、介護離職、人材流出  
勤務先への帰属意識の変化

## 【地域】

人口減少、若者・女性の流出、団塊世代の高齢化

## 【その他】

社会的孤立、生活困窮、ひきこもり、認知症、精神疾患  
がん、発達障害など

一つの変化で暮らしが激変してしまう

# 地域づくり人材って誰？どこにいる？

うちにはいい人材がない？ヒーロー待望論  
都市だから？地方だから？

- 地域コンサルティングのプロ
- スーパー公務員
- キラキラ公務員
- 地域おこし協力隊
- 所属や肩書のある人、ない人
- 凸凹のある人
- しんどいことを抱えている人
- 配慮が必要な人

# 地域に飛び出す公務員

- 当事者意識を持てる職員（ペルソナが描ける）
- 地域には人が生まれてから死んでいくまでのすべてのステージがある
- 公務員、専門職の第3の役割は重要な地域資源
- 本来やるべきところがやれる仕組みをつくる
- 答は現場にある。役所の外に出よう！
- 制度だけでは人は救えない
- 出る杭は打たれる、出過ぎた杭は打たれない、  
でも引っこ抜かれるから“かえし”をつけよう(^^)／

# 地域活性化センターオフィス改革と人材育成





毎年人数が増える⇒コミュニケーションをとりづらい  
⇒手狭になる⇒一部フリーアドレスの導入

# 次世代型オフィス改革で明るく広いオフィスへ

- ・フリーアドレス導入
- ・クリエイティブな環境づくり





# 地域活性化センターの「未来構想」

ひとを育て、コミュニティを再生し、

地域を輝かせるセンターへ

—「地域力創造大学校」をめざして—

## 「新しい知と方法」を生み出す

◇ 未来志向かつ実践的で、領域を超えて融合した「新しい知と方法」

◇ 3つの地域創造力

- ◎ 問題を設定し、解決し、それらを評価する力
- ◎ ネットワークをつくり、関係づくりをし、協働する力
- ◎ デジタル・メディアを活用する力

◇ 新たなものの見方と理論づけて考える力の養成

- ◎ 3分法思考  
(AかBかという考え方ではなく、第3の道を考慮する)
- ◎ 多様性と複雑性を許容し、対話を重視する
- ◎ 自発的に参加し、関与し、結びつこうとする気持ちを大切にする
- ◎ 共感し、相手の力を引き出す態度を身につける

◇ 物語り志向

- ◎ 夢と目標を紡ぎ、物語り、新たな価値を生み出す

## 物語2

# 「現場主義」～地域とともに進化する

- ◇ 「小さな場所」のイノベーションをともに起こしていく  
(担い手の持続的な育成・輩出)
- ◇ 「学びと愛着につながる」仲間(コミュニティー)づくりをし、  
「対話と協働」により需要創造の場をつくる
- ◇ 「地域とともに創造し、地域とともに学ぶ」機会をつくる

### 物語3

## 「研修」から「アクティブ・ラーニング」へ

- ◇ 「開かれた対話と創造の場」づくりから、  
「関心・共感・信頼による学びの場」をつくる
- ◇ 一方的な知識伝授の場から、自らが変化と応用の経験をし  
自分自身をエンパワメントする場へ
- ◇ 「仕事と学び」を一体化し、実践的なアプローチをする
- ◇ **すべての仕事は、イノベティブでクリエイティブになる**  
(ex. 経理、接客、事例編集、データベース作成、情報発信、セミナー、調査研究)

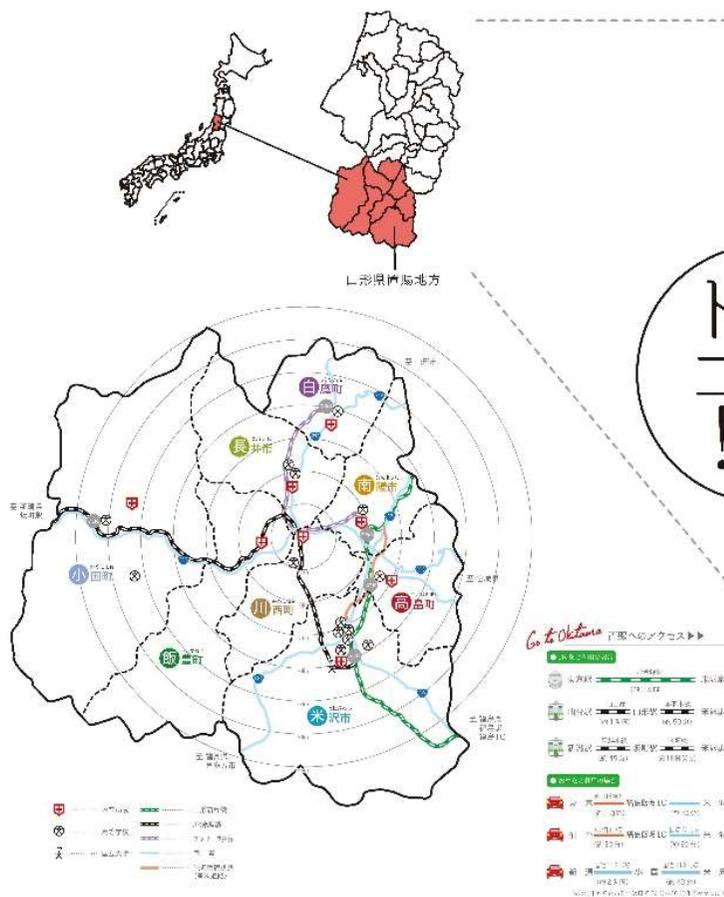
# 山形県置賜地方で取り組んでいること



# 山形県置賜（おきたま）地方について

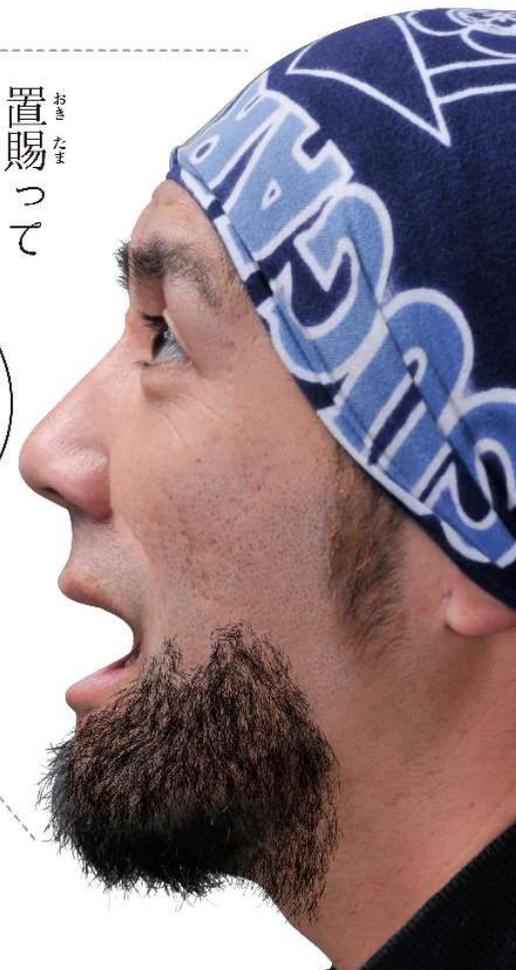
山形県置賜地方は山形県南部に位置し、面積2,495.24km<sup>2</sup>  
人口214,975人(H27国勢調査確定値)の圏域

市町名	人口
米沢市	85,953
長井市	27,757
南陽市	32,285
高畠町	23,882
川西町	15,751
白鷹町	14,175
飯豊町	7,304
小国町	7,868
合計	214,975



おきたま  
置賜って  
どの辺？

ヒゲの  
トコ！



## 置賜広域行政事務組合の概要

米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、白鷹町、飯豊町、小国町の  
3市5町で組織された一部事務組合（昭和46年7月13日設立）

【共同処理事務】

- **広域計画の策定並びに事業の実施及び連絡調整に関する事務**

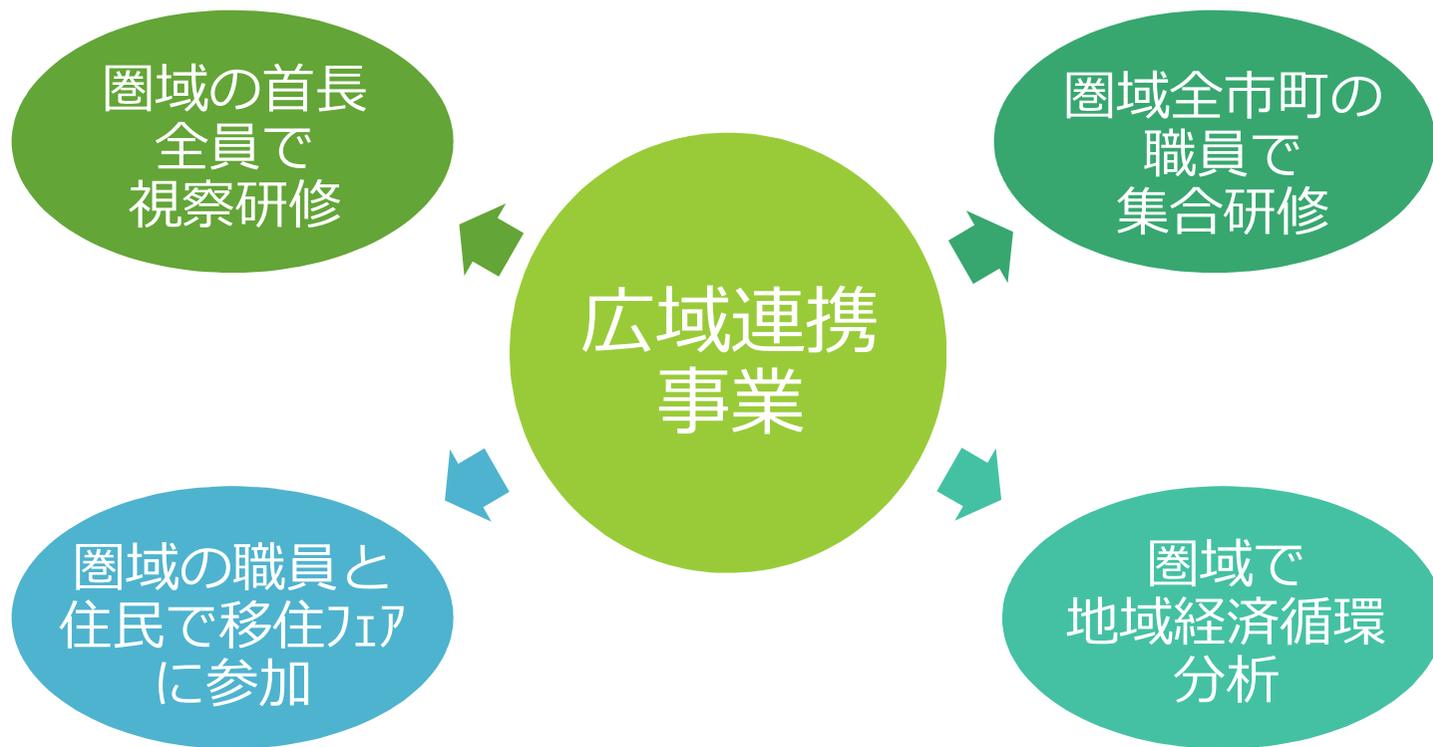
⇒ **第5次ふるさと市町村圏計画の広域活動計画により事業を実施**

- コンピューター利用による行政事務の情報処理共同事業に関する事務
- 広域交流拠点施設(余熱利用施設)の設置及び管理運営に関する事務
- し尿共同処理施設の設置及び管理運営に関する事務
- ごみ共同処理施設の設置及び管理運営に関する事務
- 消防及び救急業務に関する事務 など

## 置賜地方で取り組んできたこと

- 広域連携勉強会（27年度～）
- 広域人口推計・地域経済循環分析（28年度）
- 人と地域をつなぐ事業（28年度～7年間実施予定）
- 置賜地域定住自立圏構想推進支援（29年度）
- 置賜地域定住自立圏誕生（平成30年度～）
- 地域活性化センターとの人材育成連携協定締結（30年度～）

マッチョ(組織) × ゆるふわ(ウィークタイズ)  
～地域づくり～人づくり～産業づくり～暮らし～



「置賜はひとつ」  
置賜広域行政事務組合の思い

## 地域共生社会と地域づくり



平成30年度の勉強会は、くらしの中の様々な循環と、地域に暮らす誰もが、一人ひとりどのように生きていきたいのかを考えることが地域づくりであるというところから、スタートしました。

第1回の午前中は、厚生労働省政策統括官（当時）の野崎伸一氏に「地域共生社会と地域づくり」についてお話しいただきました。地域づくりに資する事業の一体的な実施を可能にすることにより、部署横断的、複数事業が一体化に行えること、福祉施設等の職員が行う地域活動の推進により、分野の縦割りではなく、分野を超えて混ざり合うことがくらしのなかの循環をつくるのに大事だということ学びました。

## 発想を豊かに & 伝える力を磨こうショートショートストーリーワークショップ



第1回の午後は、ショートショート作家の田丸雅智氏をお招きし、超ショートショート講座を実施。短くて不思議な小説「超ショートショート」のアイデア発想から作品完成までを行うことで、楽しみながら「発想力」「文章力」「論理的思考力」を育成する内容でした。

ショートショートの技法はいくらでも応用ができて、違うものや言葉を組み合わせるトレーニングになることから、異質なものを組み合わせることで、イノベーションにつながることを学びました。

## 図鑑づくり前のゲーム研修～伝えるを楽しみ、知識を共有する～



第3回は、まよひが企画の佐藤恒平氏を講師に招き、ゲーミフィケーションとディスカッションによる研修を行いました。

これから新しいことや面白いことをするために、置賜について、お互いのモノやコトについて、情報をしっかり集めて共有し、知識の高さ合わせ（そろえる）ことが重要だということ、ゲーミフィケーションとディスカッションを通じて学びました。

# 人と地域をつなぐ事業





# ゆるふわ

カチツとしていることの対義語ではなく、単にルーズだということでもありません。ゆるいということは、いろいろなものが許され、包摂できる寛容さがあるということです。

ふわっとしているということは、あらかじめ見えていることを目標にするのではないからこそ、ふわっと見える。

でもだからこそ、表面的に進めてしまうのではなく、まだ無いもの、言葉になってないものを探索的にみんなで考えていくことで、形にしていける可能性があります。

ゆるくてふわっとした時間があるから、本質的なことを確かめ、それに向き合う勇氣も湧いてきます。これが、一番大事なことで、これからの社会に求められているのではないかと感じています。

by 坂倉杏介先生（東京都市大学）

# ゆるふわ

## ゆる

開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。

## ふわ

まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。

⇒これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。

by 坂倉杏介先生（東京都市大学）

私たちはこの地域でどのように  
生きていきたいのか

自分の中にある  
「思い込みの壁」

新しい時代の「まちづくり」は、  
このまちで私たちがどのように生きていきたいかを考え、  
それをともに実践することを通じて実現していく活動。

そのためには、これまでの常識ややり方にとらわれることなく、  
いまここで起き始めている「未来」を感じとり、  
(たとえ小さな一歩であっても)  
その未来の一部としての私たちが何を実現できるのか、  
アイディエーションとプロトタイピングを重ねること。

つまり、ゆるふわ。

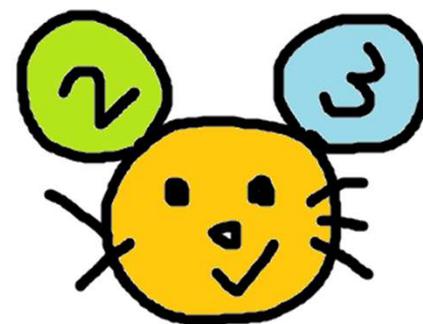
一緒に置賜の未来を創り出しましょう！

by 坂倉杏介先生(東京都市大学)

ふ るさとを愛し

た のしく学び

み んなが幸せになる



まごづくり学校  
双海  
人



# 地域住民による



# 地域活性化の学び舎

# 学校運営のキーワード

## ①多様性

- 年齢階層、職域、女性、若者、よそもの、学識者等 —

## ②対等・平等

- 組織、役職、立場等に関係なく —

## ③オープン

- わかりやすく、誰でも参加、他人任せにしない —

## ④小さな社会実験から

- まずはやってみる、小さくはじめる —

おぐり学校  
双海

応援団

教諭 講師  
ファシリテーター

校長

学生

校夢員 運営  
美女軍団

用夢員 事務局  
地域おこし協力隊など

地域住民  
NPOなど  
企業経営者  
高校生・大学生  
行政職員

多様な参画者が集う  
地域活性化の学び舎。

だれでも  
参加OK!

# 多様な参画者 まちづくり学校双海人













# 伊予市移住サポートセンター 「いよりん」



移住 いよりん



## 双海人が移住に取り組むまでの道のり

- 翠小学校を守りたい 母校がなくなるのはさみしい
- トライアスロンきかけにここに住みたい！4人家族
- 子どもが増えるしあわせ ターゲットは子育て世代
- キーパーソンは子育てがひと段落したお母さんたち
- 若返り玉手箱～移住交流で学校を救え！～スタート
- ひとづくりまちづくりの歴史が自信に
- 33集落人口推計←衝撃的な事実の伝え方
- 空き家調査←住民と地域おこし協力隊が表に、役所は裏に

15 → 22

# 特集 しあわせはきっと いよしにある

—移住から聞こえる声—

私たちが住む伊予市  
この地に何かを求めて、また魅力を感じて  
移り住んで来る人たちがいます。

「移住」

その人たちが伊予市を選んだ思い  
そして、後押しする人たちの思い  
移住に関わる人たちのさまざまな声を聞きます。



# ケアサポートとにかく笑えれば





# ぱんや107





# ぱんや107

私たちは国産小麦100%の無添加生地でパンを造っています



メロンぱん

くるみぱん

天然酵母ぱん

北海道産の良質な小麦だけを使い、イーストフード、製パン改良剤などの化学合成添加物を一切使用しない、お客様に安心して召し上がって頂ける無添加生地のふっくらパンです

## 双海でランチマップ (2019/1/16現在)

**仕出し割烹 灘(なだ)**  
11:30~13:30  
089-986-0124  
日替り定食 650円

**ほっこりかふえ おたふく**  
10:00~15:00(ランチタイム11:00~13:30)  
火・金曜日のみ営業  
ランチ 400円

**上灘水産ラーメン店**  
11:30~14:00  
089-989-8981  
鯉出汁ラーメン 500円

**サザンウインド**  
11:30~15:00(14:00LO)  
月・水曜日のみランチ(650円)営業  
089-989-7117

**LedruRollin378 (ルドルユロラン378)**  
10:00~17:00  
月・木曜定休  
089-986-0358

**季節料理 魚吉**  
11:00~20:00  
月曜定休  
089-987-0015

**くじら**  
9:00~18:00  
月曜定休  
089-987-0789

**夕焼けびちびち市**  
10:00~17:00  
土・日曜日のみ営業  
089-987-0050

**ラーメンショップKANTO双海店**  
11:00~17:00 (夏~18:00)  
月曜定休  
089-987-0574

**喜多漁港**

**喜多瀬駅**

**ラ・メール**  
9:00~20:00  
水曜定休  
089-987-0852

**潮路食堂**  
11:00~15:00  
水曜定休(臨時休業有り)  
089-987-0654

**urusumi**  
11:00~15:00  
土曜日のみ営業  
△臨時休業中

**ふたみ潮風ふれあい公園キャンプ場**

**本谷の棚田**

**伊予上灘駅**

**Cafeまる**  
10:00~16:00  
日曜定休  
089-986-1415

**料理どころ翠笑(すいしょう)**  
11:30~  
不定休・完全予約制  
089-986-1977

**さくら亭**  
11:00~(売切れ次第終了)  
木曜日のみ営業  
ランチ 500円

**あげ焼きパン 象の耳**  
090-7628-8682  
※『海アフロPOST』隣での移動販売

**寿司・仕出し 双楽(そうらく)**  
11:00~14:00  
月曜定休  
089-986-1459

**石窯香房みどり提携駐車場**

**赤屋根の倉庫**

**至伊予市**

**高野川駅**

**至中山町**

**翠小学校**

ぱんや107(いちまるなな)  
 Open 10:00~17:00 定休日は月曜日と第2・第4日曜日  
 799-3202 愛媛県伊予市双海町上灘甲4051-1  
 050-3636-8981  
 bakery107@gmail.com  
 fb.me/bakery107



# さくら食堂



# 食堂おたふく





SHIMONADA COFFEE  
EHIME, SETOUCHI, JAPAN

下灘  
珈琲

SAMURAI  
MENU  
50  
[COFFEE]  
HOT 300  
アイス 350  
ICE 350  
[HOT DRINK]  
紅茶 300  
ハーブティ 300  
[COLD DRINK]  
レモンサワー 400  
グレープフルーツ 350  
柚子ジュース 400  
柚子ジュース 400  
[ALCOHOL]  
アサイー 600  
ビール 450

# 米ぬか酵素風呂「酵素まる」



# さら

まっさらな想いと笑顔で地域を元気に。

介護用品・日用品を  
笑顔といっしょにお届けします。



でざいんや



# 平成30年度過疎地域自立活性化優良事例表彰 全国過疎地域自立促進連盟会長賞受賞！！



# 課題よりも未来志向で

- 課題解決はマイナスをゼロに戻す視点
- 共感から考える⇒ペルソナを丁寧につくる
- アイディエーション～プロトタイピング～検証
- ループバック(繰り返し)⇒失敗してもいい
- 少し距離感をもっていつもと違う視点で見る
- デザイン思考でいこう
- ワークライフソーシャルバランス
- 希望の種を咲かせる地域づくりを！

# 多様性のないところに創発は生まれない

- 異質 × 異質が新しい価値を生む「協働」
- 協働 ⇒ 共創 ⇒ 社会的創発
- だけ・ばかり ⇒ 複合・交差・交替・共生
- 強いリーダー ⇒ あいだをつなぐ人
- 「しなやかさ」と「のりしろ」
- シェアリングエコノミー
- 「カフェ」や「コ・ワーキングスペース」  
⇒ 「場」があちこちにできる効果
- 他地域交流、広域連携、遠隔地連携
- 競う・闘うより応援しあえる関係性

# さいごにおまけ

- 「地方創生」⇒地域の数だけやり方、答えがある
- 競争に夢中になってしまうと見落としてしまうものがある
- 課題解決から入らず分野を超えて交ぜていこう！
- 巻き込まない⇒共感で集まる⇒価値創造
- 強くなろう！
- シンプルなものは強い 考え抜いた結果だから  
考えることはしんどい  
プロセスはしんどくても楽になる、厚みが増す  
人も地域も太る

平成 27 年度

## 置賜広域行政事務組合 広域連携事業報告書

### 事業概要

概 要	<p>本組合では、平成 25 年 3 月に「第 5 置賜広域ふるさと市町村圏計画」を策定し、新たな取組みとして構成市町が抱える課題に対し、広域連携を基本方針に 3 市 5 町が一体となって解決を模索する基盤として、広域連携アクションプランを設定している。</p> <p>平成 25 年度から「新たな広域連携の研究・推進」をテーマに広域連携アクションプランとして、研究・推進を行ってきたが、課題として浮かび上がるものの、広域連携による課題解決を具体的に施策とすることは難しい現状にあった。</p> <p>このことから、平成 27 年度は広域連携の勉強会等を実施することを構成市町に提案し了承を得て、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を活用し、(一財)地域活性化センターの支援を受け、広域連携の勉強会を中心とした事業を実施することとなった。</p>
目 的	<p>第 5 次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など、様々に考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌を醸成することを目的とする。</p>
実施事業	<p>(1) 理事者視察[平成 27 年 7 月 8 日 (水)～9 日 (木)] 東京都[地域活性化センター、移住交流ガーデン、東京おもちゃ美術館]</p> <p>(2) 第 1 回勉強会[平成 27 年 8 月 24 日 (月)] 高畠町[熱中小学校]</p> <p>(3) 第 2 回勉強会[平成 27 年 11 月 13 日 (月)] 白鷹町[文化交流センターあゆむ]</p> <p>(4) 企画主査視察研修[平成 27 年 12 月 12 日 (土)～13 日 (日)] 愛媛県西予市[高川公民館]</p> <p>(5) JOIN 移住・交流フェア共同出展[平成 28 年 1 月 16 日 (土)～17 日 (日)] 東京都[東京ビッグサイト]</p> <p>(6) 第 3 回勉強会[平成 28 年 2 月 15 日 (月)] 長井市[はぎ苑]</p>

## 理事者視察

### 1 目的

本組合の理事者（3市5町首長）による広域連携の理解を深めることを目的とした。

### 2 月 日

平成27年7月8日（水）～9日（木）

### 3 視察先

- (1) (一財) 地域活性化センター
- (2) 移住・交流情報ガーデン
- (3) 東京おもちゃ美術館

### 4 内 容

野竹司郎氏[総務省人材力活性化・連携交流室長]、椎川忍氏[(一財) 地域活性化センター理事長]及び斉藤俊幸氏[地域活性化伝道師]の講話、移住・交流情報ガーデンの視察、東京おもちゃ美術館で多田千尋氏[東京おもちゃ美術館館長]による講話及び館内視察を実施した。

### 5 参加者 各市町理事、本組合職員 11名

### 5 視察時の様子



## 第1回勉強会

### 1 目的

1月のJOINフェア参加に向け、「移住」という切り口で互いの持ち味、利点を共有し、それにより相談者へ単発の提案にとどまらない、広域としての提案ができるようにする。その第一歩として、置賜圏域の連携の可能性の共有や、移住者が求めている情報と受け入れ側が伝えたい情報のギャップなどを学ぶことを目的とした。

2 月 日 平成27年8月24日(月)

3 場 所 高畠町「熱中小学校」

### 4 内容

各市町企画主査、移住担当職員及び地域おこし協力隊に出席いただき、前神有里氏から移住に取組むにあたってのポイント整理、各自治体の強みと弱みから見る連携した資源活用について、佐藤恒平氏からわがまちの魅せ方を講演及びグループ形式で学んだ。

### 5 講師

(1) 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里氏

(2) 地域振興サポート会社まよひが企画代表 佐藤恒平氏

6 参加者 各市町職員、地域おこし協力隊、本組合職員 20名

### 7 第1回勉強会の様子



## 第2回勉強会

### 1 目的

1月のJOINフェア参加に向け、「移住」という切り口で互いの持ち味、利点を共有し、それにより相談者へ単発の提案にとどまらない、広域としての提案ができるようにし、その第一歩として、置賜圏域の連携の可能性の共有や、移住者が求めている情報と受け入れ側が伝えたい情報のギャップなどを学んだ第1回勉強会のブラッシュアップを目的とした。

2 月 日 平成27年11月13日(金)

3 場 所 白鷹町「文化交流センターあゆむ」

### 4 内容

各市町企画主査、移住担当職員及び地域おこし協力隊に出席いただき、岩崎正敏氏から地域経済の循環構造から移住・定住を考える講話があり、「ふれあい囲碁」を行ったあと、前神有里氏からは移住フェアに向け、田舎暮らしのイメージづくりを支援することのアドバイスがあり、置賜地域のSWOT分析を行った。

### 5 講師

(1) 地域活性化センター常務理事 岩崎正敏 氏

(2) 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里 氏

6 参加者 各市町職員、地域おこし協力隊、本組合職員 21名

### 7 第2回勉強会の様子



## 企画主査視察研修

### 1 目的

広域連携の調査研究を目的とした企画主査による視察研修を実施した。

研修内容については、広域連携事業の支援を受けている（一財）地域活性化センターのアドバイスを受け、現地に赴き先進的な事例を直接学ぶことができる地域創生実践塾・土日集中セミナー「人口減少時代の地域経営～地域の人たちが幸せになる地域づくり～」を受講した。

2 月 日 平成 27 年 12 月 12 日（土）～13 日（日）

3 場 所 愛媛県西予市城川町高野子 7 5 - 1 高川公民館

### 4 内容

初日は、三好幹二氏[愛媛県西予市長]のウェルカムスピーチから始まり、講師である飯盛義徳氏から「地域資源をいかに展開するか」、坂倉杏介氏から「つながりを生み出す地域の居場所」の講義のあと、西予市遊子川での地域活性化の取組みについて事例発表があった。

二日目は、初日の内容を個人・グループ・全体で共有し、講師である飯盛義徳氏から「地域イノベーションをもたらすために」、坂倉杏介氏から「対話からはじまるイノベーション」の講義があり、講義を踏まえてグループによる「地域が元気に自転していけるためのシナリオプランニング」のワークを実施し全体で理解を深めることができた。

### 5 講師

- (1) 慶應義塾大学総合政策学部 教授 飯盛義徳 氏
- (2) 東京都市大学都市生活学部 准教授 坂倉杏介 氏

6 参加者 各市町企画主査、本組合職員 11 名

### 7 研修の様子



## JOIN 移住・交流フェア共同出展

### 1 目的

置賜地域として共同でブース出展を実施し、置賜をエリアとしてPRすることで、移住希望者に置賜を知っていただくことを主な目的とした。

### 2 月 日 平成 28 年 1 月 16 日 (土) ~ 17 日 (日)

### 3 場 所 東京ビッグサイト 西 2 ホール

### 4 内 容

来場者に置賜を知っていただくため、置賜をPRできるレイアウト、パンフレット及びパネル、置賜の四季を写真織にした米織タペストリーを作成し、玉こんにゃくや置賜のお菓子の試食を準備し、3市5町の職員、地域おこし協力隊及び移住実践者でブース対応を行った。

事前に第1回勉強会 (H27. 8. 24) 及び第2回勉強会 (H27. 11. 13) で、置賜地域の強みと弱みをSWOT分析していたことや、移住相談のポイントは田舎暮らしのイメージ作りを支援することなどを学んでいたことを、来場者の対応に活かすことができた。

また、今回のブース対応で最も効果的な手法となったのは、来場者対応を移住実践者及び地域おこし協力隊の方をお願いしたことで、実際に移住した置賜での暮らしの話をしていただいたことが来場者を引きつける結果となった。

### 5 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 13名

置賜地域への移住者、地域おこし協力隊 6名

### 6 JOIN 移住・交流フェア共同出展の様子



### 第3回勉強会

#### 1 目的

平成27年度の「広域連携事業」では、第1回勉強会、第2回勉強会、JOINフェア共同出展を行ってきたが、今年度事業の振り返りを行い、来年度以降の広域連携事業に繋げることを目的とした。

2 月 日 平成28年2月15日（月）

3 場 所 長井市「はぎ苑」

#### 4 内 容

1年間取り組んできた「広域連携事業」を振り返り、達成できたこと、来年度に実施することをグループワーク形式で整理し様々な意見が出され、来年度の「広域連携事業」に繋げることができた。

5 講 師 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里氏

6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 21名  
置賜地域への移住者、地域おこし協力隊 6名

#### 7 第3回勉強会の様子



## まとめ

第5次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など様々に考えられる広域的な課題を検討するため、平成27年度から新たな取組みとして、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌の醸成を目的に、「広域連携事業」として「理事者視察」、「企画主査視察研修」、「勉強会」及び「JOIN 移住・交流フェア共同出展」を実施した。

財源については、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を活用し、事業支援として、(一財)地域活性化センターから支援を受け進めてきた。

今年度、事業を実施したことで、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌を醸成することといった広域連携の枠組みづくりの第1歩を踏み出すことができた。

特に、「JOIN 移住・交流フェア共同出展」では、たくさんの方が来場する会場で、置賜地域が広域で連携し、ひとつの地域としてPRできたことで、来場者に「置賜」を広く知っていただくことができ、JOINの運営側にも大変高い評価を得られる結果となった。

共同出展については、フェア当日までに各市町から多くの職員、地域おこし協力隊及び移住実践者にご参加いただき、「移住・定住」をテーマにした「勉強会」を開催したことが、置賜ブースとしての成功に繋がったと考えている。

また、企画主査視察研修の講師であった坂倉杏介氏[東京都市大学 准教授]には、平成28年度から本組合が新たに始める「おきたま地域づくり事業～人と地域をつなぐ～」の講師をお引き受けいただいたことも成果のひとつと捉えている。

これらのことから、来年度についても置賜地域の広域連携を進めるため、引き続き「広域連携事業」を実施していきたい。

最後に、一年を通してご協力いただいた各市町企画主査及び職員の皆様、山形県置賜総合支庁地域振興課の皆様、ご支援いただいた(一財)地域活性化センターの皆様、助成金によるご支援及びご助言をいただいた山形県市町村課及び山形県市町村振興協会事務局の皆様には深く感謝申し上げ、報告書の結びとしたい。

# 置賜広域行政事務組合 広域連携事業報告書

## 事業概要

<p>概 要</p>	<p>本組合では、平成 25 年 3 月に「第 5 置賜広域ふるさと市町村圏計画」を策定し、新たな取組みとして構成市町が抱える課題に対し、広域連携を基本方針に 3 市 5 町が一体となって解決を模索する基盤として、広域連携アクションプランを設定している。</p> <p>平成 25 年度から「新たな広域連携の研究・推進」をテーマに広域連携アクションプランとして、研究・推進を行ってきたが、課題として浮かび上がるものの、広域連携による課題解決を具体的に施策とすることは難しい現状にあり、平成 27 年度から広域連携の勉強会等を実施している。</p> <p>平成 28 年度も昨年度に引き続き、広域連携の勉強会等を実施することで構成市町から了承を得ており、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を活用し、(一財)地域活性化センターの支援を受け、広域連携の勉強会を中心とした事業を実施した。</p>
<p>目 的</p>	<p>第 5 次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など、様々に考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌を醸成することを目的とする。</p>
<p>実施事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第 1 回勉強会[平成 28 年 7 月 13 日(水)～14 日(木)] 川西町[浴浴センターまどか]</li> <li>(2) 第 2 回勉強会[平成 28 年 10 月 12 日(水)～13 日(木)] 飯豊町「町民総合センターあーす」</li> <li>(3) 広域連携セミナー[平成 28 年 10 月 27 日(木)～28 日(金)] 白鷹町「鷹野湯温泉 パレス松風」</li> <li>(3) 企画主幹視察研修[平成 28 年 11 月 16 日(水)～17 日(木)] 東京都「(一財)地域活性化センター、芝の家」</li> <li>(4) 企画主査視察研修[平成 28 年 12 月 9 日(金)～11 日(日)] 滋賀県東近江市「東近江市役所等」</li> <li>(5) JOIN 移住・交流フェア共同出展[平成 29 年 1 月 14 日(土)～15 日(日)] 東京都「東京ビッグサイト」</li> <li>(6) 理事者広域連携懇談会[平成 29 年 2 月 6 日(月)] 米沢市「東京第一ホテル米沢」</li> <li>(6) 第 3 回勉強会[平成 29 年 2 月 7 日(火)・13 日(月)] 南陽市「南陽市文化会館」・川西町「浴浴センターまどか」</li> </ol>

## 第1回勉強会「人口推計・地域経済循環分析」

### 1 目的

人口推計・地域経済循環分析に取り組み、置賜地域の産業がもたらす生産、所得の分配・消費等の状況を数値化して地域の特色を把握し、新たな広域連携の研究に活用する。

2 月 日 平成28年7月13日(水)

3 場 所 川西町「浴浴センターまどか」

### 4 内容

各市町企画主査を中心に出席いただき、地域活性化センター岩崎常務理事から地域経済循環分析の基礎的な知識について、地域活性化センター石原課長代理から集落単位等の小規模地域での人口推計を出すことによる効果等の説明について、講演及びグループを実施した。

### 5 講師

(1) 地域活性化センター常務理事 岩崎正敏 氏

(2) 地域活性化センター人口・地域経済研究室課長代理 石原盛次 氏

6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 11名

### 7 第1回勉強会の様子



## 第1回勉強会「移住・定住」

### 1 目的

1月のJOINフェア参加に向け、「移住」という切り口で互いの持ち味や利点を共有しあい、自分のまちの「暮らし」について振り返り、自分自身の移住に関する知識や経験値の現状を知り、置賜地域の連携の可能性の共有や、移住者が求めている情報と受け入れ側が伝えたい情報のギャップなどを学び、相談者へ単発の提案にとどまらない、広域の強みを活かした提案ができるようにする。

2 月 日 平成28年7月14日(木)

3 場 所 川西町「浴浴センターまどか」

### 4 内容

各市町移住担当者、地域おこし協力隊を中心に出席いただき、地域活性化センター前神室長から昨年度のJOINフェアでの取組紹介から、最近の移住施策傾向の講話、ワークショップを実施した。

5 講師 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里 氏

6 参加者 各市町職員、山形県職員、地域おこし協力隊、本組合職員 20名

### 7 第1回勉強会の様子



## 第2回勉強会「人口推計・地域経済循環分析」

### 1 目的

人口推計・地域経済循環分析に取り組み、置賜地域の産業がもたらす生産、所得の分配・消費等の状況を数値化して地域の特色を把握し、新たな広域連携の研究に活用する。

2 月 日 平成28年10月13日(木)

3 場 所 飯豊町「町民総合センターあーす」

### 4 内容

前回実施した地域経済循環分析の基礎的な知識整理を前提に、地域経済データを用い、現状の置賜圏域の経済循環構造を理解する。また、そこから判断できる特徴や課題等から今後の地域活性化策を考える。

### 5 講師

(1) 地域活性化センター常務理事 岩崎正敏 氏

(2) 地域活性化センター人口・地域経済研究室課長代理 石原盛次 氏

### 7 第2回勉強会の様子



## 第2回勉強会「移住・定住」

### 1 目的

1月のJOINフェア参加に向け、「移住」という切り口で互いの持ち味や利点を共有しあい、自分のまちの「暮らし」について振り返り、自分自身の移住に関する知識や経験値の現状を知り、置賜地域の連携の可能性の共有や、移住者が求めている情報と受け入れ側が伝えたい情報のギャップなどを学び、相談者へ単発の提案にとどまらない、広域の強みを活かした提案ができるようにする。

### 2 月 日 平成28年10月12日(水)

### 3 場 所 飯豊町「町民総合センターあーす」

### 4 内 容

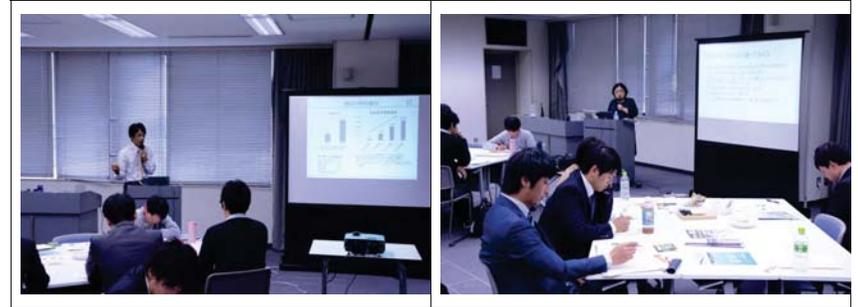
各市町移住担当者、地域おこし協力隊を中心に出席いただき、地域活性化センター前神室長から前回の振り返りとワークショップを実施し、移住・交流推進機構成清参事から、移住定住と暮らしの講話があった。

### 5 講 師

- (1) 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里 氏
- (2) 移住・交流推進機構(JOIN)参事 成清雅人 氏

### 6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 18名

## 7 第2回勉強会の様子



## 広域連携セミナー

### 1 目的

これからの置賜圏域のまちづくりはどうあるべきかをテーマに、構成市町自治体職員及び本組合職員による広域連携セミナーを実施し、自治体職員が置賜圏域の実情や行政を取り巻く環境の変化を把握し、政策形成の理論と実践的なまちづくりの考え方・進め方や、地方分権社会の構築に向けた政策形成能力を高め、広域連携による圏域の問題や課題を解決する手法を学ぶ。

### 2 月 日 平成28年10月27日(木)～28日(金)

### 3 場 所 白鷹町「鷹野湯温泉 パレス松風」

### 4 内 容

浦野秀一氏を講師に、政策能力とは何かの講義、コーホート変化率法を用いた人口推計から地域課題と対応策を見つけるワークショップ、KIT-PT法(複雑・多様な住民の意見・要望を行政に反映させる手法)を学ぶワークショップ、政策ディベートを行った。

### 5 参加者 各市町職員、本組合職員 30名

### 6 広域連携セミナーの様子



## 企画主幹視察研修

### 1 目的

本組合企画主幹（3市5町企画担当課長）による視察研修を実施し、地方創生の現状等や置賜広域の取組についての理解を深め、置賜広域全体として意識を共有していく。

### 2 月 日

平成28年11月16日（水）～17日（木）

### 3 視察先

- (1)（一財）地域活性化センター
- (2) 芝の家

### 4 内 容

地域活性化センターでの研修及び東京都港区“芝の家”の視察を行った。

#### 【11月16日（水）】 会場：地域活性化センター大会議室

時間	内容
13:30	講義Ⅰ：「地方創生の現状、人材育成」
14:00	講師：椎川 忍（地域活性化センター理事長）
14:00	講義Ⅱ：「基礎自治体未達の人口分析について」
14:20	講師：石原 盛次（人口・地域経済研究室）
14:30	講義Ⅲ：「定住自立圏構想について」
15:30	講師：高橋 範充氏（個人情報保護委員会事務局総務課 課長補佐）
15:30	意見交換
15:50	対応者：佐藤 啓太郎（地域活性化センター事務局長）
16:00	講義Ⅳ：「地方分権時代における自治体の組織と経営」
17:30	講師：大杉 覚（首都大学東京大学院教授）

#### 【11月17日（木）】 会場：地域活性化センター、芝の家

時間	内容
9:30	講義Ⅴ：「地域経済循環分析について」
10:50	講師：岩崎 正敏氏（地域活性化センター 常務理事）
11:00	置賜広域連携事業におけるこれまでの取り組みについて
11:30	対応者：前神有里（地域活性化センタークリエイティブ室長）
13:30	芝の家視察
14:30	

### 5 参加者 各市町企画主幹、本組合職員 9名

### 6 視察時の様子



## 企画主査視察研修

### 1 目的

広域連携の調査研究を目的とした企画主査による視察研修を実施した。

研修内容については、広域連携事業の支援を受けている（一財）地域活性化センターのアドバイスを受け、現地に赴き先進的な事例を直接学ぶことができる地域創生実践塾「森里川湖のつながりを活かした住民総参加の循環共生型まちづくり～温かいお金と自治の心でつなぐ人と人・人と自然～」を受講した。

2 月 日 平成 28 年 12 月 9 日（金）～11 日（日）

3 場 所 滋賀県東近江市役所ほか

### 4 内容等

#### (1) 12 月 9 日（金）

時間	内容
14:00 15:00	開講式・ガイダンス
15:00 15:30	講義1 主任講師 山口 美知子 氏 「東近江市のまちづくりの特徴について」
15:30 16:30	講義2 特別講師 丸橋 裕一 氏 「森が育む」
16:30 17:30	講義3 特別講師 野々村 光子 氏 「10年後の彼を見つめた就労支援」
18:00 20:00	交流会（野菜花）

#### (2) 12 月 10 日（土）

時間	内容
9:00 9:30	講義4 特別講師 村山 英志 氏 「薪プロジェクトの現場から」
9:45 10:45	講義5 特別講師 増田 隆 氏 「せっけん運動から菜の花、田舎もん体験へ」
12:00 13:00	講演6 特別講師 野村 正次 氏 「夢をカタチに、安心をカタチに」
13:30	フィールドワーク
15:30	①木地師資料館見学 ②「政所茶復活の意義」
15:30 16:30	講演7 特別講師 大石 和美 氏 「チーム永源寺が目指すもの」
17:30 18:00	グループワーク（2日間のふりかえり）
18:00 20:00	地元主催の懇親会

#### (3) 12 月 11 日（日）

時間	内容
9:00	パネルディスカッション
10:30	「地元の資源を使って豊かな生活を送る、次世代をどう育てていくか」
10:30 11:00	まとめ行動宣言
11:00 11:15	閉会・解散

5 参加者 各市町企画主査、本組合職員 9名

6 研修の様子



## JOIN 移住・交流フェア共同出展

### 1 目的

置賜地域として共同でブース出展を実施し、置賜をエリアとしてPRすることで、移住希望者に置賜を知っていただくこと。

### 2 月 日 平成 29 年 1 月 14 日 (土) ~ 15 日 (日)

### 3 場 所 東京ビッグサイト 西 2 ホール

### 4 内 容

来場者に置賜を知っていただくため、置賜をPRできるレイアウトとし、3市5町の職員、地域おこし協力隊、移住者及び地域住民でブース対応を行った。

事前に第1回勉強会、第2回勉強会及び事前打合せを行い、置賜地域の強みと弱みをSWOT分析していたことや、移住相談のポイントは田舎暮らしのイメージ作りを支援することなどを学んでいたことを、来場者の対応に活かすことができた。

また、今回のブース対応で最も効果的な手法となったのは、来場者対応を地域おこし協力隊、移住者及び地域住民の方をお願いしたことで、置賜での暮らしの話をしていただいたことが来場者を引きつける結果となった。

### 5 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 19名

置賜地域への移住者、置賜地域の住民、地域おこし協力隊 4名

### 6 JOIN 移住・交流フェア共同出展の様子



## 理事者広域連携懇談会

- 1 目的  
本組合の理事者（3市5町首長）に広域連携の理解を深めていただくこと。
- 2 月 日  
平成29年2月6日（月）
- 3 場所  
米沢市「東京第一ホテル米沢」
- 4 内 容  
地方創生の現状等や置賜広域の取組についての理解を深め、置賜広域全体としての意識共有と、来年度以降の方向性を確認するため、椎川忍氏〔（一財）地域活性化センター理事長〕から、「成熟社会に求められる人材の育成・組織のあり方」の講話、岩崎正敏氏〔（一財）地域活性化センター常務理事〕から、「置賜圏域における地域経済循環分析」の講話があり、本組合理事者との意見交換を実施した。
- 5 講 師  
(1) 地域活性化センター 理事長 椎川忍 氏  
(2) 地域活性化センター 常務理事 岩崎正敏 氏  
(3) 地域活性化センター クリエイティブ事業室長 前神有里 氏
- 6 参加者 各市町理事、本組合職員 14名
- 7 広域連携懇談会の様子



## 第3回勉強会「人口推計・地域経済循環分析」

- 1 目的  
人口推計・地域経済循環分析に取り組み、置賜地域の産業がもたらす生産、所得の分配・消費等の状況を数値化して地域の特色を把握し、新たな広域連携の研究に活用する。
- 2 月 日 平成29年2月7日（火）
- 3 場 所 南陽市「南陽市文化会館」
- 4 内 容  
二年間実施してきた勉強会の振り返りを行い、来年度置賜圏域がどのような方向性で取組むかを検討するとともに、置賜圏域の地域経済循環分析の結果を政策に落とし込むポイントを学ぶ
- 5 講 師  
(1) 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里 氏  
(2) 地域活性化センター人口・地域経済研究室課長代理 石原盛次 氏
- 6 参加者 各市町職員、本組合職員 14名

団体名	職 名	氏 名	団体名	職 名	氏 名
長井市	係長	牛 澤 和 樹	白鷹町	係長	片 山 正 弘
南陽市	係長	鈴 木 聡	飯豊町	主任	横 澤 剛
高島町	主事	栗 田 英 徳	小国町	係長	廣 瀬 孝 徳
高島町	主事補	平 井 ゆ き			

- 7 第3回勉強会の様子



### 第3回勉強会「移住・定住」

#### 1 目的

1月15日に参加したJOINフェアを振り返り、そこから得た課題やヒントを整理することで、来年度以降の置賜地域の移住・定住への取組を考える。

また、外部講師の講義から、自分のまちの「くらし」について考え、生活者の視点でのくらしの施策や人の繋がり等から、各市町移住担当者の意識や移住施策の目的を考える機会とする。

#### 2 月 日 平成29年2月13日（月）

#### 3 場 所 川西町「浴浴センターまどか」

#### 4 内 容

各市町移住担当者、地域おこし協力隊及び移住者を中心に出席いただき、午前中は地域活性化センター前神室長からJOINフェアの振り返り、周防大島定住促進協議会の泉谷勝敏氏の講義があり、午後からは佐藤恒平氏をファシリテーターに、前神室長、泉谷勝敏氏、村山市地域おこし協力隊の小田嶋優氏によるパネルディスカッションを実施した。

#### 5 講 師

- (1) 地域活性化センタークリエイティブ事業室長 前神有里 氏
- (2) 周防大島町定住促進協議会 泉谷勝敏 氏
- (3) 地域振興サポート会社まよひが企画 佐藤恒平 氏
- (4) 村山市地域おこし協力隊 小田嶋優 氏

#### 6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 22名

#### 7 第3回勉強会の様子



### まとめ

平成27年度から第5次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など様々に考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌の醸成を目的に、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を財源に活用し、事業支援として、(一財)地域活性化センターから支援を受け「広域連携事業」を実施した。

平成28年度は昨年度の事業とあわせて、新たな取組みとして、置賜圏域をひとつの経済圏として、地域経済循環分析を行い、勉強会を通じて手法を学び、新たな広域連携の研究・推進に取り組むことができた。

来年度についても、置賜地域のさらなる広域連携推進のため、引き続き「広域連携事業」を実施していきたい。

最後に、各市町の理事及び職員の皆様、山形県置賜総合支庁地域振興課の皆様、ご支援いただいた(一財)地域活性化センターの皆様、助成金によるご支援及びご助言をいただいた山形県市町村課及び山形県市町村振興協会事務局の皆様深く感謝申し上げ、報告書の結びとしたい。

# 置賜広域行政事務組合 広域連携事業報告書

## 事業概要

<p>概 要</p>	<p>本組合では、平成 25 年 3 月に「第 5 置賜広域ふるさと市町村圏計画」を策定し、新たな取組みとして構成市町が抱える課題に対し、広域連携を基本方針に 3 市 5 町が一体となって解決を模索する基盤として、広域連携アクションプランを設定している。</p> <p>平成 25 年度から「新たな広域連携の研究・推進」をテーマに広域連携アクションプランとして、研究・推進を行ってきたが、課題として浮かび上がるものの、広域連携による課題解決を具体的に施策とすることは難しい現状にあり、平成 27 年度から広域連携の勉強会等を実施している。</p> <p>平成 29 年度も昨年度に引き続き、広域連携の勉強会等を実施することで構成市町から了承を得ており、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を活用し、(一財)地域活性化センターの支援を受け、広域連携の勉強会を中心に実施した。</p>
<p>目 的</p>	<p>第 5 次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など、様々に考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌を醸成することを目的とする。</p>
<p>実施事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第 1 回勉強会 [平成 29 年 7 月 18 日 (火)] 東京都「地域活性化センター」</li> <li>(2) 企画主査視察研修 [平成 29 年 7 月 19 日 (水)] 埼玉県秩父市「ちちぶ定住自立圏」</li> <li>(3) 第 2 回勉強会 [平成 29 年 8 月 22 日 (火)] 長井市「はぎ苑」</li> <li>(4) 第 3 回勉強会 [平成 29 年 10 月 5 日 (木)、6 日 (金)] 高畠町「熱中小学校」 川西町「浴浴センターまどか」</li> <li>(5) 企画主幹視察研修 [平成 29 年 10 月 18 日 (水)～20 日 (金)] 兵庫県豊岡市「但馬定住自立圏」、京都府京都市</li> <li>(6) 広域連携セミナー [平成 29 年 10 月 19 日 (木)～20 日 (金)] 飯豊町「フォレストいいで」</li> <li>(7) 理事者視察 [平成 29 年 11 月 6 日 (月)～7 日 (火)] 埼玉県秩父市「ちちぶ定住自立圏」</li> <li>(8) JOIN 移住・交流フェア共同出展 [平成 30 年 1 月 21 日 (日)] 東京都「東京ビッグサイト」</li> </ol>

- (9) 広域連携講演会 [平成29年6月5日・平成30年2月7日]  
米沢市「グランドホクヨウ」
- (10) 定住自立圏先進地視察 [平成29年5月8～9日・5月25～26日]  
5月 8～9日：青森県八戸市「八戸圏域定住自立圏」  
5月25～26日：山形市「山形定住自立圏」  
新庄市「新庄最上定住自立圏」  
酒田市「庄内北部定住自立圏」  
鶴岡市「庄内南部定住自立圏」

## 第1回勉強会「定住自立圏の推進について」

- 1 目的  
定住自立圏構想の概要及び取組についての理解を深め、形成協定や共生ビジョンの策定に向け、置賜圏域全体として意識を共有する。
- 2 月 日 平成29年7月18日(火)
- 3 場 所 東京都「一般財団法人地域活性化センター(以下(一財)地域活性化センター)」
- 4 内 容  
定住自立圏構想に関する講話の後、置賜圏域の事業計画について協議検討を行った。
- 5 講 師  
(1) 総務省 地域力創造グループ地域自立応援課 事務官 森 寿貴 氏  
「定住自立圏構想の成り立ちから現在までの変遷」  
(2) (一財)地域活性化センター 事務局長 佐藤 啓太郎 氏  
「地方創生の現状」  
(3) 個人情報保護委員会 事務局総務課長補佐 高橋範充 氏  
「定住自立圏構想推進において企画担当部門が考慮すべき事項」
- 6 参加者 各市町職員、本組合職員 13名
- 7 第1回勉強会の様子



## 企画主査視察研修

- 1 目的  
定住自立圏構想の先進地である「ちちぶ定住自立圏」での取組を学び、定住自立圏構想の制度の理解を深め、置賜圏域での定住自立圏の推進に向けた事務の参考とするもの。
- 2 月 日 平成29年7月19日(水)
- 3 場 所 埼玉県秩父市 秩父市役所
- 4 内容  
先行実施団体である、「ちちぶ定住自立圏」の概要と具体的な取り込み(環境分野、水道広域化)について、各課の担当の方から説明を受けた。
- 5 参加者 各市町職員、本組合職員 13名

## 6 研修の様子



### 第2回勉強会「地域経済循環分析・定住自立圏構想」

#### 1 目的

今後の施策を検討するため、昨年度作成した置賜圏域の地域経済循環分析を用い、現状の置賜圏域の経済循環構造を学ぶ。

また、定住自立圏構想について、各構成市町で検討した事業案について、個人情報保護委員会高橋範充氏をアドバイザーとして、意見調整を行い、今後取り組むべき事業案について精度を高める。

2 月 日 平成29年8月22日(火)

3 場 所 長井市「はぎ苑」

#### 4 内容

- (1) RESAS で見える置賜地域の経済構造
- (2) 定住自立圏構想に係る各市町の事業案に対する意見調整

#### 5 講師

- (1) (一財) 地域活性化センター人口・地域経済研究室 室長 石原 盛次 氏
- (2) 個人情報保護委員会事務局 総務課長補佐 高橋 範充 氏

6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 15名

## 7 第2回勉強会の様子



### 第3回勉強会「移住・定住」

#### 1 目的

移住担当者を中心として、市町の個性の掘り起しと広域での魅力創造について学び、共有するとともに、1月開催のJOIN 移住・交流フェア共同出展に臨むにあたって、その特徴について学び、共有を図る。

2 月 日 平成29年10月5日(木)

3 場 所 高島町「熱中小学校」

#### 4 内容

各市町移住担当者、地域おこし協力隊を中心に出席いただき、移住交流機構の高安氏から、全国の移住定住の動向、フェアの内容、今年の傾向などの講義を受けた。

地域活性化センター小嶋氏からは、シビックプライドの醸成から始める内発的な移住定住戦略と題し、移住定住の戦略について講義とワークショップを行った。

最後に首都大学東京大学院教授の大杉氏から、地域づくりにつながる移住・定住について講義を受けた。

5 講師 首都大学東京大学院教授 大杉 覚 氏

地域活性化センター クリエイティブ事業室 担当課長 小嶋 敦夫 氏

移住交流推進機構 参事 高安 芳忠 氏

6 参加者 各市町職員、山形県職員、地域おこし協力隊、本組合職員 15名

#### 7 第3回勉強会の様子



### 第3回勉強会「定住自立圏構想」

#### 1 目的

定住自立圏構想の推進、形成協定や共生ビジョンの策定に向け、今後の方向性や取組事項を明確にする。

#### 2 月日 平成29年10月6日(金)

#### 3 場所 川西町「浴浴センター まどか」

#### 4 内容

定住自立圏構想における取組事業検討に際し、首都大学東京大学院教授の大杉氏から事業検討の着眼点についての講義を受けた後、引き続き大杉氏をアドバイザーとし、置賜圏域での取組事業の検討を行った。

#### 5 講師

首都大学東京大学院 教授 大杉 覚 氏

#### 6 参加者 各市町職員、山形県職員、本組合職員 19名

#### 7 第3回勉強会の様子



### 企画主幹視察研修

#### 1 目的

定住自立圏構想の概要及び取組についての理解を深め、形成協定や共生ビジョンの策定に向け、置賜広域全体として意識を共有すること。また、定住自立圏構想で取り組むべき事業(移住・定住、空き家対策、施設集約、地元木材使用等)の参考とするため、先進的に取り組んでいる各種施設等を視察する。

#### 2 月日

平成29年10月18日(水)～20日(金)

#### 3 視察先

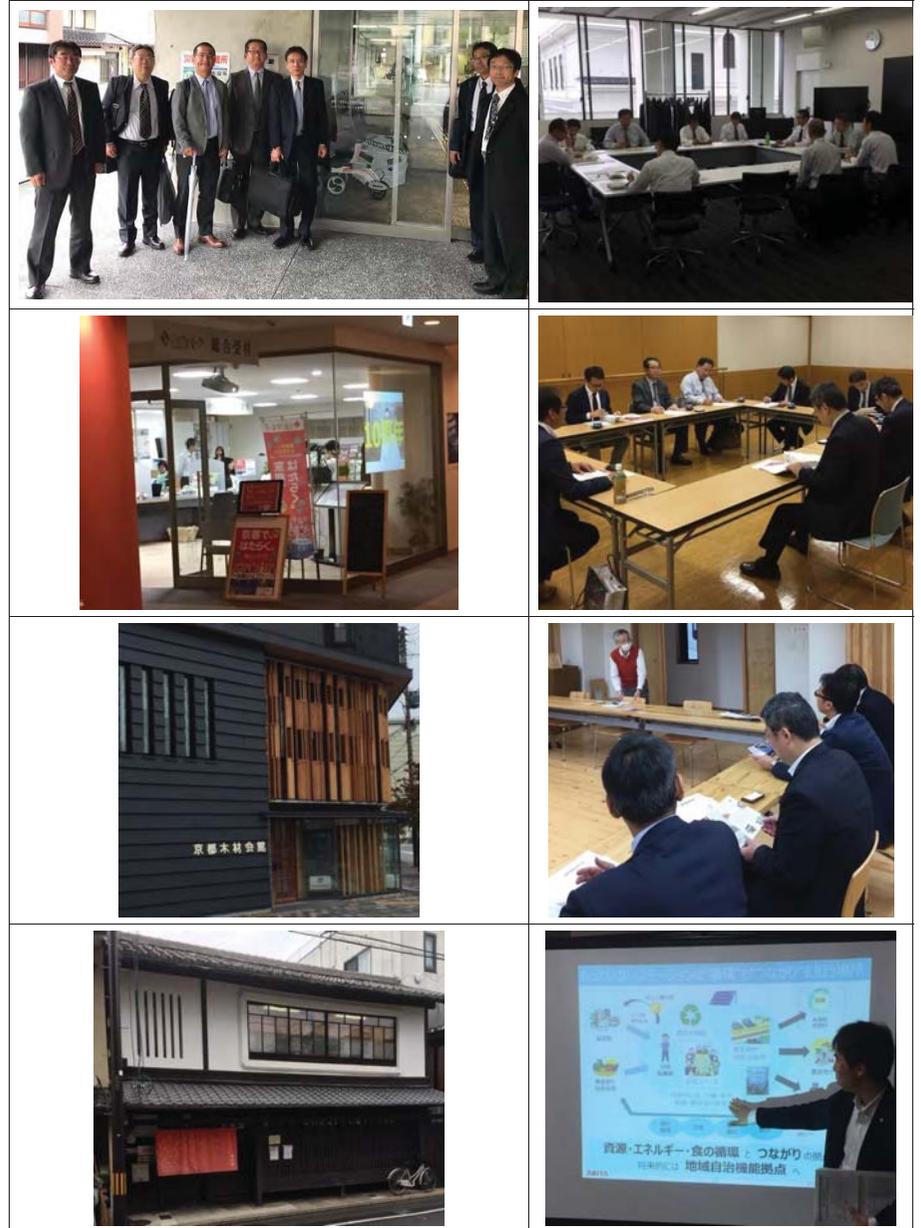
- (1) 兵庫県豊岡市 「但馬定住自立圏」
- (2) 京都府京都市 「京都ジョブパーク」「京都木材会館」「風伝館」

#### 4 内容

豊岡市では、同市が中心市として取り組んでいる「但馬定住自立圏」の取り組みについて、京都市では、就業支援事業、環境に関する取組について視察した。

#### 5 参加者 各市町企画主幹、本組合職員 9名

### 6 視察時の様子



## 広域連携セミナー

### 1 目的

これからの置賜圏域のまちづくりはどうあるべきかをテーマに、構成市町自治体職員及び本組合職員による広域連携セミナーを実施し、自治体職員が置賜圏域の実情や行政を取り巻く環境の変化を把握し、政策形成の理論と実践的なまちづくりの考え方・進め方や、地方分権社会の構築に向けた政策形成能力を高め、広域連携による圏域の問題や課題を解決する手法を学ぶ。

2 月 日 平成29年10月19日(木)～20日(金)

3 場 所 飯豊町「フォレストいいで」

### 4 内容

浦野秀一氏を講師に、政策能力とは何かの講義、コーホート変化率法を用いた人口推計から地域課題と対応策を見つけるワークショップ、KIT-PT法(複雑・多様な住民の意見・要望を行政に反映させる手法)を学ぶワークショップ、政策ディベートを行った。

5 参加者 各市町職員、本組合職員 30名

6 広域連携セミナーの様子



## 理事者視察

### 1 目的

定住自立圏構想推進するにあたり概要及び取組についての理解を深め、形成協定や共生ビジョンの策定に向け、置賜圏域全体として首長間での意識を共有する。

### 2 月 日

平成29年11月6日(月)～7日(火)

### 3 場所

埼玉県秩父市

### 4 内容

地方創生の現状等や広域連携及び定住自立圏構想についての理解を深め、置賜全体としての意識共有を図るため、椎川忍氏[(一財)地域活性化センター理事長]による講話の後、秩父市長及び秩父市役所地域政策課職員による、ちちぶ定住自立圏の取組事業の説明を受けた。

5 参加者 各市町理事、本組合職員 7名

## 6 広域連携懇談会の様子



## JOIN 移住・交流フェア共同出展

### 1 目的

置賜地域として共同でブース出展を実施し、置賜をエリアとしてPRすることで、移住希望者に置賜を知っていただくこと。

2 月 日 平成30年1月20日(土)～21日(日)

3 場 所 東京ビッグサイト 西1ホール

### 4 内容

来場者に置賜を知っていただくため、置賜をPRできるレイアウトとし、3市5町の職員、地域おこし協力隊、移住者及び地域住民でブース対応を行った。

事前に勉強会及び事前打合せを行い、来場者の対応に活かすことができた。

また、今回のブース対応で最も効果的な手法となったのは、来場者対応を地域おこし協力隊、移住者及び地域住民の方をお願いしたことで、置賜での暮らしの話をしていただいたことが来場者を引きつける結果となった。

5 参加者 各市町職員、地域おこし協力隊、本組合職員 14名

置賜地域への移住者、置賜地域の住民、地域おこし協力隊 7名

6 JOIN 移住・交流フェア共同出展の様子





## 広域連携講演会

- 1 目的  
置賜地域の広域連携及び定住自立圏の推進を図る。
- 2 月 日  
(1) 平成29年6月5日(月)  
(2) 平成30年2月7日(水)
- 3 場 所 米沢市「グランドホクヨウ」
- 4 演 題  
6月5日「置賜の広域連携と定住自立圏構想の推進について」  
2月7日「広域連携と人材育成～置賜の未来のために～」
- 5 講 師 (一財)地域活性化センター 事務局長 佐藤 啓太郎 氏
- 6 参加者 各市町理事、各市町議員、各市町職員、本組合職員議員 80名
- 7 講演会の様子



## 定住自立圏先進地視察

### 1 目的

置賜圏域における定住自立圏構想について、米沢市が中心市宣言を行ったのち、円滑に形成協定書の締結や共生ビジョンの策定に繋げるため、実務等を事前に把握する。

### 2 月日及び場所

- (1) 平成29年5月8日(月)～9日(火)  
青森県八戸市「八戸圏域定住自立圏」
- (2) 平成29年5月25日(木)～26日(金)  
山形市「山形定住自立圏」  
新庄市「新庄最上定住自立圏」  
酒田市「庄内北部定住自立圏」  
鶴岡市「庄内南部定住自立圏」

### 3 内容

以下の項目について、聞き取りを行った。

- (1) 八戸圏域定住自立圏
  - ・定住自立圏構想の立ち上げ、取組事業の検討の過程
  - ・公共交通及び医療分野の事業内容の詳細
- (2) 山形定住自立圏、新庄最上定住自立圏、庄内北部定住自立圏、庄内南部定住自立圏
  - ・中心市宣言から共生ビジョンの策定までの全体スケジュール
  - ・構想を推進するにあたり、留意した事項
  - ・連携による効果、メリット等

## まとめ

平成27年度から第5次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など様々な考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌の醸成を目的に、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を財源に活用し、事業支援として、(一財)地域活性化センターから支援を受け「広域連携事業」を実施した。

平成29年度は置賜圏域における定住自立圏構想の推進を大きな柱とし、勉強会及び各視察を行った。

来年度についても、置賜地域のさらなる広域連携推進のため、引き続き「広域連携事業」を実施していきたい。

最後に、各市町の理事及び職員の皆様、山形県置賜総合支庁地域振興課の皆様、ご支援いただいた(一財)地域活性化センターの皆様、助成金によるご支援及びご助言をいただいた山形県市町村課及び山形県市町村振興協会事務局の皆様には深く感謝申し上げます、報告書の結びとしたい。

平成 28 年度広域的な人財育成事業 実績報告書

おきたま地域づくり

～人と地域をつなぐ事業～

事業概要

趣旨・目的	<p><b>【趣 旨】</b> 置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。 置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。 そのため、第5次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成 25 年度～34 年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。</p> <p><b>【目 的】</b> 本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元することにより、地域課題の解決・地域のプランディング化・交流人口の拡大等につなげる。 また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。</p>
概 要	<p>1 事業内容（継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載） 本組合の人財育成事業は、平成 28 年度を開始年度として平成 34 年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」と「精神的なサードプレイスとしての役割」を事業の骨子とする。（事業イメージは図 1 のとおり） 開始年度である平成 28 年度の事業内容は、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF-JT」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業スキームを構築する。</p>

	<p>①講義で様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。 ②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。 ③フィールドワークや演習を通じて実体験。 ④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。 ⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。</p> <p>2 事業後の展望 人財育成事業を継続することで、置賜地域内で地域づくりに関わる人々の「精神的なサードプレイス」としての役割を果たしていく。 また、参加者から事業実現のための相談や協力の要請があった際は、行政や地域づくり団体との橋渡しをすることで、事業展開の機会や活躍の場を創出していく。</p> <p><b>【図 1】</b></p> <div style="text-align: center;"> </div>		
実施事業	項目	月日	内容
	講義Ⅰ	6/19	地域をともにつくるチームづくり
	オープン講座	6/19	しあわせに生き続けられるための人と地域のつながり方
	講義Ⅱ	9/17	置賜でどのように生きていきたいか
	芝の家等視察研修	11/2～3	芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修
	講義Ⅲ	2/11～12	雪灯かりのつどい この地域に生き続けるために
	置賜地域づくり 座談会	6/18 9/16	米沢市及び長井市で実施 南陽市で実施
	地域活性化センター 「土日集中セミナー」	7/30～31	高校と地域の連携による地域活性化 徹底解剖 氷見市地方創生戦略
		10/1～2	集え！幸せを紡ぐ未来への戦略会議！
		11/19～20 11/26～27 12/17～18	DMO時代の観光マーケティング実践力強化講座 空家の現状と対策
受講者自主事業	1/14～15	やねだん東京塾	
	10/17・12/5 12/16	Chiffocafe 助産師みえのよろずケア	

## 講師

坂倉 杏介 氏

[東京都市大学都市生活学部准教授、慶應義塾大学大学院政策、メディア研究科特任講師、三田の家LLP代表など]

多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。

地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

## 受講者[第1期]

合計12名（男性3名、女性9名）

米沢市（男性1名、女性5名）、長井市（女性1名）、川西町（男性2名）、飯豊町（女性2名）、白鷹町（女性1名）

## 事業支援

(一財) 地域活性化センター クリエイティブ事業 室長 前神有里氏  
副参事 稲田行寛氏

## 事業内容

### 置賜地域づくり座談会 I

項目	内容
参加者	・受講者 ・特定非営利活動法人With優代表（米沢市） ・春まちカフェ店主（長井市）、べにばなレジェンド代表（長井市）、黒獅子ガールズ等（長井市）、bookbookokitama等（長井市）
月日	平成28年6月18日（土）
場所	With優 [米沢市]、春まちカフェ[長井市]
目的	講師に置賜を知っていただくため、置賜で地域づくり等に取組む方を訪問し座談会を開催した。

### 【置賜地域づくり座談会 I の様子】



### 講義 I 「地域をともにつくるチームづくり」

項目	内容
参加者	・受講者12名
月日	平成28年6月19日（日）
場所	長井市「はぎ苑」
講義	「地域をともにつくるチームづくり」として、講師のファシリテートにより、ガイダンス、チェックイン、アイスブレイク、ライフストーリーの共有を実施し、1年間共に活動するチーム作りを行った。

### 【講義 I 「地域をともにつくるチームづくり」の様子】



## オープン講座「しあわせに生き続けられるための人と地域のつながり方」

項目	内容
参加者	・受講者及び一般参加 26名
月 日	平成28年6月19日(日)
場 所	長井市「置賜生涯学習プラザ」
講 義	「しあわせに生き続けられるための人と地域のつながり方」として、講師のファシリテートにより、ガイダンス、チェックイン、ワールドカフェ形式の対話を実施し、講演とワークショップを行い、ワークショップでは積極的な意見交換が行われた。

【オープン講座「しあわせに生き続けられるための人と地域のつながり方」】



## 置賜地域づくり座談会Ⅱ

項目	内容
参加者	・受講者 ・ichocafe 店主、地域おこし協力隊(南陽市)、HOPE 代表(南陽市)、あみゅーず代表(南陽市) 南陽市役所職員、Gratitude 代表(南陽市)
日 時	平成28年9月16日(金)
場 所	わくわく icho カフェ、Gratitude[南陽市]
目 的	講師に置賜を知っていただくため、置賜で地域づくり等に取り組む方を訪問し座談会を開催した。

【置賜地域づくり座談会Ⅱの様子】



## 講義Ⅱ「置賜でどのように生きていきたいか」

項目	内容
参加者	・受講者
月 日	平成28年9月17日(土)
場 所	米沢市「スタジオ八百萬」
講 義	講師のファシリテートにより、午前中は、チェックイン、受講者同士によるインタビュー形式による振り返りや4人1組でのストーリーテリング(①語り手、②インタビュー役、③書記役、④全力での聞き役)を実施し、午後からは、「置賜でどのように生きていきたいか?」、「そのために、この会をどのような集まりにしたいか?」を話し合い、参加者から様々な意見が出された。

【講義Ⅱ「地域をともにつくるチームづくり」の様子】



## 芝の家等視察研修

項目	内容
参加者	・受講者
日 時	平成28年11月2日(水)から3日(木)
場 所	(1) 芝の家[東京都港区芝3丁目26-10] (2) ご近所ラボ新橋[東京都港区新橋6丁目4-2] (3) 芝コミュニティはうす[東京都港区芝5丁目13-15]
内 容	(1) 芝の家視察研修 対応者：坂倉杏介氏、加藤亮子氏、小嶋千津子氏

港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察した。

「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。そんな昭和30年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業であり、運営は、慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、コミュニティ再生のアイデアをふくらませている。

こういった話を聞きながら、受講者同士や芝の家に来ていた地元の方と交流し、地域をつなぐ場所を体験することができた。

#### (2) ご近所ラボ新橋

対応者：青柳彰一 氏

ご近所ラボ新橋は、港区が芝の家とあわせて運営する、「ご近所イノベーション活動」の実践を応援する実験室で、「地域と、誰かと、わたしのために、ここからはじまるご近所イノベーションをテーマに、身近なところから地域や社会をちょっと良くしていくという場となっている。

運営体制は、港区と慶應義塾大学の協働事業となっており、事務局スタッフと、曜日ごとに駐在する日替わりの「マスター」によって日々のオープンがされている。伺った日は水曜日の「対話ラボ」となっており、対話により社会を良くしようという活動をしている日であったため、受講者とともに参加し、この事業でどういったことをしていきたいか、置賜でどのように活かしていきたいかを話しあうことができた。

#### (3) ご近所イノベータ養成講座 活動発表会

講師：前野隆司 氏[慶應義塾大学大学院 SDM研究科委員長、教授]  
山口 寛 氏[津屋崎ランチLLP代表]

ご近所イノベーションとは、地域にかかわる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくりであり、「自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区から。」をテーマに、「ご近所イノベーション学校」として、想いをまちにつなげるさまざまな講座の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生み出す場の運営や、学校という名の「新しいかたちの中間支援のプラットフォーム」づくりを通して、多くのご近所イノベーションが起こる地域を目指しおり、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携によって実施されている。

ご近所イノベーション学校では、自分の想いと持ち味を地域に活かし、人と人、組織と組織をつなげ、創造的な課題解決を実現する〈人財〉の育成を目的に、大学や地域の資源を活用した各種の講座を実施しており、今回は第4期の活動発表の見学と、基調講演「私を活かしてまちを活かす地域づくりの幸福学[前野隆司 氏]」を受講し、幸せの4つの因子として「自己実現と成長の因子・つながりと感謝の因子・前向きと楽観の因子・独立と自分らしさの因子」について学び、受講者も港区の参加者の方と意見交換を行うことができた。

第4期の方々の発表は受講者の方の参考になり、養成講座の仕組みは、

これからの人と地域をつなぐ事業の進め方の参考になった。

#### (4) まとめ

当初から計画していた交流・フィールドワークとして、講師である坂倉杏介氏の港区での取り組みを受講者の方と一しょに体験することで、今までの講義内容を深く理解することができ、受講者の方が新たにこういったことに取組んでみたいという創発にもつながった。

今後、今回の視察研修の振り返りを行い、受講者が取組んでみたいことを事務局としてもサポートし、来年度以降の活動にも繋げていきたい。

【芝の家等視察研修の様子】



### 講義Ⅲ「雪灯りのつどい」

項目	内容
参加者	公募による受講者 12 名
日時	平成 29 年 2 月 11 日（土）から 12 日（日）
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
講義	人と地域をつなぐ事業として実施した内容、受講者の提案で企画された事業、土日集中セミナーの受講を経て、1 年間の振り返りを行いながら、これからつながる、講義Ⅲ「雪灯りのつどい」を実施した。

#### 【講義Ⅲ「雪灯りのつどい」の様子】



### 地域活性化センター「土日集中セミナー」受講

項目	内容
参加者	・受講者
内容	<p>公募による受講者が興味のあるセミナーを選択し受講した。</p> <p>(1) 高校と地域の連携による地域活性化～加速化交付金で教育と地域をつなぐ事例に学ぶ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 28 年 7 月 30 日（土）13 時～18 時 31 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール 301 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）</li> <li>・受講者：2 名</li> </ul> <p>(2) 徹底解剖 氷見市地方創生戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 28 年 10 月 1 日（土）13 時～18 時 2 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール 301 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）</li> <li>・受講者：3 名</li> </ul> <p>(3) 「集え！幸せを紡ぐ未来への戦略会議！」生活困窮者支援と暮らしを支え合う仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 28 年 11 月 19 日（土）13 時～18 時 20 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール 301 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）</li> <li>・受講者：1 名</li> </ul> <p>(4) DMO時代の観光マーケティング実践力強化講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 28 年 11 月 26 日（土）13 時～18 時 27 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：地域活性化センター会議室（東京都中央区日本橋 2-3-4）</li> <li>・受講者：2 名</li> </ul> <p>(5) 空家の現状と対策—急増する空き家問題への処方箋は？—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 28 年 12 月 17 日（土）13 時～18 時 18 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール 301 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）</li> <li>・受講者：1 名</li> </ul> <p>(6) やねだん東京塾～行政に頼らない村おこし～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成 29 年 1 月 14 日（土）13 時～18 時 15 日（日）9 時～13 時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール 301 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）</li> <li>・受講者：2 名</li> </ul>

## 受講者自主事業「chiffocafe」

項目	内容
参加者	公募による受講者 12 名
日時	第 1 回：平成 28 年 10 月 17 日（月） 第 2 回：平成 28 年 12 月 5 日（月）
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
内容	受講者にコーヒーを淹れるのが好きな方がいて、参加者に飲んでもらいながら、コーヒーについて学んでほしいということで、人と地域をつなぐ事業の受講者が自主的に集まり実施した。集まる中で、対話による事業の振り返りなどを行った。

### 【受講者自主事業「chiffocafe」の様子】



## 受講者自主事業「助産師みえのよろずケア」

項目	内容
参加者	公募による受講者 2 名
日時	平成 28 年 12 月 16 日（金）
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
内容	受講者の方が、以前から取組んでみたいと考えていた内容を、人と地域をつなぐ事業に参加し、同じような思いを持った仲間や、「想い」を「形」にしてみようと後押ししてくれる仲間である、若林あい子さん出会い、自主的に企画を実施することとなった。 概要：産後ケア（アロママッサージ（手・足・背中等）、骨盤体操など）

### 【受講者自主事業「助産師みえのよろずケア」の様子】



## 受講者感想

感想
<p><b>【女性（米沢市）】</b></p> <p>職場と家の往復で毎日が終わっている。やりたい事があるけれど何をどうしていいかわからない。そう感じている時に、この事業が目にとまりました。年に 4 回程度の講座なら負担も少ないし、この講座に参加して何かヒントが得られるかもと思い、参加しました。年齢も職業も違う仲間と出会い、みんなの話を聞き、刺激を受けました。毎回、講座に参加するたび、パワーを貰って帰ってきました。そこにはワクワクがありました。</p> <p>私は産後のお母さんたちが笑顔で過ごしていけるような支援をしていきたいと思っています。講座でその話をした時に、「一緒にやろう」という仲間ができ、実際に開催するまでに至りました。自分がやってみたかった事の初めの 1 歩を踏み出すことができたのです。講座に参加して、「幸せは伝染する」「ゆるふわつながり」「ワクワクを作る」などを学びました。私はここで人脈や考え方を大きく広げる事ができました。</p> <p><b>【男性（米沢市）】</b></p> <p>当初のキックオフ講座が終わった後の打ち合わせにスタジオ八百萬を使って頂いたことから、坂倉先生や前神さんをはじめ事務局のみなさんと知り合いました。</p> <p>その時に「この場所は面白い」と言って頂いたので、この方たちと一緒に何か面白いことが起こるかも？と思い、どんな取り組みをするのかも知らずに参加しました。</p> <p>その予感は当たって、同じ地域で想いを共感したり、誰かの夢の実現を手伝ったりできる大切な仲間ができました。</p> <p><b>【女性（飯豊町）】</b></p> <p>人と地域をつなぐとは？と考えてみましたが、結果的に、この事業自体が皆のサードプレイスになっているのではないかなと思いました。これをしてみたい！と言うと、否定せず、いいね！と言ってくれる仲間がここには居ます。私のコーヒー好きから始まったコーヒー会。コーヒーがコミュニケーションツールとなり、リラックスした良い空間が出来上がっていると思います。来期では、更にワクワクする事をしていきたいです。</p> <p><b>【女性（米沢市）】</b></p> <p>地元に戻ってきたからには何か地域とつながることをしたいと思い、チラシを見て応募をしました。初めはこの事業に参加して「何が始まるんだろう」という期待と、不安とでいっぱいでした。6月にメンバーと会い、会場の雰囲気やメンバーの顔触れ、メンバー同士のすでにある繋がりを感じ、正直なところ、一気に不安になりましたが、回を重ねるごとにそれは消え、有意義な時間を過ごすことができました。すべての会に参加できなかったことは残念でしたが、セミナーや集まりを通して新たな発見・気づきがあり、普通に生活していたら出会えなかった方々とも知り合うことができ、美恵さんの思いを形にするお手伝いすることも出来ました。</p> <p>様々な取り組みを通して、いろんな方のお話や体験談を聞き、「子供が小さいから」というのを理由に、今まで自分に自分で制御をかけてきていたんだという事がよく分かり、自分の身動きを取れなくしているのは自分自身であったことを痛感しました。「子供が小さいから」ではなく、『子供の成長に合わせて、子供たちと一緒に』もっと自分の生きたいように生きよう、子供たちにカッコイイ生き方を見せようと思いました。</p>

坂倉先生、参加メンバー、事務局の方々、この事業をきっかけに知り合った方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこのつながりを大事に、そして広げていけたらと思います。本当にありがとうございました！

【男性（川西町）】

私はマッチョなイベント企画を通し、有志で動くことの難しさを感じていました。期限を決め動くことと個々の意識の差が現れます。「その日都合つきません」が蔓延する中、ひとを巻き込むことの限界を感じていました。

つなぐ事業は、都合をつけてでも足を運びたくなりました。コーヒーを淹れる会やよろずケアなど、想いを紡ぐように生まれる行動や、ゆるふわな雰囲気が進められるワークショップを体験し、仲間を応援したい想いがじわ〜と湧いてきました。

【女性（白鷹町）】

今回参加したきっかけは、1期生募集のチラシを見たときの「地域作りに疲れた人に・・・」のキャッチフレーズに惹かれたことでした。

初顔合わせでは、女性が多いことにも驚きましたが、個々の地域づくりへの志の高さが伝わり、自分がここにいて良いのかと不安だったのを覚えています。

それでも、皆さんと話をしていくうちに、この事業独特の「ゆるふわ」な感じがとても居心地がよくて、新しい地域づくりへ取り組む形が見えた気がしました。

「私が今後、どのような形で地域に関わって行きたいのか。」まだきちんと説明出来るほど形にはなっていませんが、この事業で得た感覚を現在参加している活動にも活かしていきたいと思いました。

## 総括

### 1 坂倉 杏介 氏（講師）

#### 感想

この事業では、私自身とても学びがありました。

みなさんに教えてもらったのは、地域はこうあるべきである、こうなったらもっと評価されるという形にはめるのではなく、「この地域でどのように生きていきたいのか」を一人一人がじっくりと考えることが地域づくりの第一歩であること。それを実現するために、行政に何かしてほしいと要望するのではなく、まず自分たちが「こうやって生きたい」というライフスタイルを実践して、それを通じて、地域を自分たちの人生の舞台としてふさわしい形に整えていく活動こそが地域づくりだということ。それを忘れがちな、と改めて感じた1年でした。最近、他のところでも、地域づくりを語る時はこのことを話しています。組織的な取り組みや行政の役割など、カチッと進めていく仕事も必要ですが、それだけではなくて、生活する人、人生を営む一人一人の「私」という立場から地域に関わっていくことが大切です。

今回の講座で共有された「ゆるふわ」という言葉ですが、これはカチットしていることの対義語ではなく、単にルーズだということでもありません。ゆるいということは、いろいろなものが許され、包摂できる寛容性があるということです。ふわっとしているということは、あらかじめ見えていることを目標にするのではないからこそ、ふわっとして見える。でも、だからこそ表面的に進めてしまうのではなく、まだ無いもの、言葉になっていないものを探索的にみんなで考えていくことで、形にしていける可能性があります。ふわっとしていることは、より本質的な議論のために不可欠なのだと思います。

ゆるくてふわっとした時間があるから、本質的なことを確かめ、それに向き合う勇氣も湧いてきます。これが一番大事なことで、これからの社会に求められているのではないかと感じています。参加者の皆さんの持っているエネルギーの大きさと多様性に、わくわくしています。それが繋がり、思いもかけないものを生み出していけるよう、これからもチャレンジを続けていきましょう。

### 2 前神 有里 氏（事業支援）

#### 感想

東北は我慢するところというイメージでいたけれど、置賜はそうではありませんでした。山形でも置賜は面白いと思って、1年間置賜で広域連携事業を支援したあとに、新しく面白い事業を始めると言われたのがこの「人と地域をつなぐ事業」でした。

実際にふたを開けてみると、受講者は女性が多く、はじめて会う人ばかりなのに、緊張しないという不思議な「場」ができていました。

課題解決型の地域づくりや行政にずっと違和感があり、異質なものと異質なものが掛け合わさって新しい価値を生むような課題解決が好きでした。人と地域をつなぐ事業では、地域の課題を話すことはなく、今日のような雰囲気でも話をすることが、とても良かったです。

この事業では、ゆるやかにとっていますが、これを公式な行政の事業で、7年やるというのがすごいところだと思っています。

地域おこしでは、自分の地域の良いところばかり言うと、広がりがなく疲れてしまうので、このような形で続けていってほしいと思います。

## おわりに

本組合では、ふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的人材の育成活用事業として、平成28年度から新たに、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施しました。

坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」だけでなく、初年度から受講者の自発的な取組みに繋がったことは大きな成果となりました。

これからも、平成34年度まで、引き続き事業を実施するなかで、「気づき」や「きっかけ」を与える場であるとともに、受講者といっしょに、試行錯誤しながら置賜地域で生き活きと暮らしていくための方法を考えていく事業としていきたいと思っています。

最後に、受講していただいた第1期生のみなさま、快く講師を引き受けていただいた坂倉杏介氏、事業の支援をいただいた（一財）地域活性化センターの前神有里氏、稲田行寛氏、オープン講座にご参加されたみなさま、座談会にご参加いただいたみなさまに、深く感謝申し上げます、報告書の結びとします。

# おきたま地域づくり

## ～人と地域をつなぐ事業～

### 事業概要

趣旨・目的	<p><b>【趣旨】</b> 置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。 置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。 そのため、第5次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成25年度～34年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。</p> <p><b>【目的】</b> 本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元することにより、地域課題の解決・地域のプランディング化・交流人口の拡大等につなげる。 また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。</p>
概要	<p>1 事業内容（継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載） 本組合の人財育成事業は、平成28年度を開始年度として平成34年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」と「精神的なサードプレイスとしての役割」を事業の骨子とする。（事業イメージは図1のとおり） 事業内容としては、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF-JT」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業スキームを構築する。 ①講義で様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。 ②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。</p>

<p>③フィールドワークや演習を通じて実体験。 ④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。 ⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。</p> <p>2 事業後の展望 人財育成事業を継続することで、置賜地域内で地域づくりに関わる人々の「精神的なサードプレイス」としての役割を果たしていく。 また、参加者から事業実現のための相談や協力の要請があった際は、行政や地域づくり団体との橋渡しをすることで、事業展開の機会や活躍の場を創出していく。</p> <p>【図1】</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>月日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者説明会</td> <td>5/19</td> <td>第2期生へ事業内容を説明</td> </tr> <tr> <td>講義Ⅰ</td> <td>6/24～25</td> <td>私たちはこの地域でどのように生きていきたいか</td> </tr> <tr> <td>講義Ⅱ・公開講座</td> <td>8/26～27</td> <td>東沢地域の未来を考える</td> </tr> <tr> <td>芝の家等視察研修</td> <td>11/2～3</td> <td>芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修</td> </tr> <tr> <td>講義Ⅲ</td> <td>3/3～4</td> <td>この地域に生き続けるために</td> </tr> <tr> <td>地域活性化センター「土日集中セミナー」</td> <td>7/8～9 9/30～10/1 10/14～15 1/27～28</td> <td>未来を紡ぐ地域の教育力 住民が主役となる地域ビジネス 津屋崎ランチと幸せのメカニズム やねだん東京塾</td> </tr> <tr> <td>受講者自主事業</td> <td>11/15 3/2</td> <td>フォーラム八百萬 テーマ「子育て」 フォーラム八百萬 テーマ「古民家」</td> </tr> </tbody> </table>	項目	月日	内容	受講者説明会	5/19	第2期生へ事業内容を説明	講義Ⅰ	6/24～25	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか	講義Ⅱ・公開講座	8/26～27	東沢地域の未来を考える	芝の家等視察研修	11/2～3	芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修	講義Ⅲ	3/3～4	この地域に生き続けるために	地域活性化センター「土日集中セミナー」	7/8～9 9/30～10/1 10/14～15 1/27～28	未来を紡ぐ地域の教育力 住民が主役となる地域ビジネス 津屋崎ランチと幸せのメカニズム やねだん東京塾	受講者自主事業	11/15 3/2	フォーラム八百萬 テーマ「子育て」 フォーラム八百萬 テーマ「古民家」
項目	月日	内容																							
受講者説明会	5/19	第2期生へ事業内容を説明																							
講義Ⅰ	6/24～25	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか																							
講義Ⅱ・公開講座	8/26～27	東沢地域の未来を考える																							
芝の家等視察研修	11/2～3	芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修																							
講義Ⅲ	3/3～4	この地域に生き続けるために																							
地域活性化センター「土日集中セミナー」	7/8～9 9/30～10/1 10/14～15 1/27～28	未来を紡ぐ地域の教育力 住民が主役となる地域ビジネス 津屋崎ランチと幸せのメカニズム やねだん東京塾																							
受講者自主事業	11/15 3/2	フォーラム八百萬 テーマ「子育て」 フォーラム八百萬 テーマ「古民家」																							

講師

坂倉 杏介 氏

[東京都大学都市生活学部准教授、慶應義塾大学大学院政策、メディア研究科特任講師、三田の家LLP代表など]

多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。

地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

受講者名簿[第1期]

合計 13 名 (男性 4 名、女性 9 名)

米沢市 (男性 2 名、女性 6 名)、長井市 (女性 1 名)、南陽市 (男性 2 名)、高島町 (女性 2 名)

事業支援

(一財) 地域活性化センター クリエイティブ事業 課長 小嶋敦夫 氏  
副参事 圓田空美 氏

事業内容

講義 I 「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」

項目	内容
参加者	第2期生7名、第1期生2名
日時	平成29年6月25日(日) 10:00~15:00
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
講義	講師の坂倉先生から、昨年度の「人と地域をつなぐ事業」のキーワードとなった「ゆるふわ」について、改めて定義があり、講義が進められた。「ゆる：開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。」「ふわ：まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。」→これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。 講義の中で、高齢化が進行し、2035年には、「1.2人で1人の高齢者を支

える。」ことを逆に考えれば、「大人7人で若い世代を育てられる社会」として捉えることもできるといった話や、「つながり」と「活動」がうまれる場所としての「サードプレイス」の話があった。

講義のあと、受講者同士がどんな人生を送ってきたのか、対話の中で掘り下げる「エナジーカーブ」のシェアを行うワークショップを行った。

【講義 I 「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」の様子】



講義 II ・公開講座「東沢地域の未来を考える」

項目	内容
参加者	第2期生9名、第1期生3名、一般7名、坂倉研究室学生30名
日時	平成29年8月26日(土) 13:00~17:00 27日(日) 13:00~17:00
場所	川西町「東沢活性化センター」
講義	講義 II ・公開講座「東沢地域の未来を考える」は、はじめての試みとして、東京都大学坂倉杏介研究室の夏合宿と合同事業という形で実施した。人と地域をつなぐ事業の第1期生の案内で、川西町東沢の大舟地区のフィールドワークを行った。地域の方へのインタビューをする班、デザインするために地形を確認する班、ドローンなど様々な機材で撮影する班、公開講座の運営を担当する班に分かれて、事前に調査した内容とフィールドワークで揃えた材料から、班ごとに提案発表の内容を考え準備を進めた。公開講座では運営、発表の内容、司会などをすべて学生たちが考え実施した。坂倉先生の「つながりによる資源の資源化」についての講演と、第1期生の想いを聴いたあと、3班に分かれた学生たちの発表があった。

各班の発表を受けて、人と地域をつなぐ事業の受講者、一般の参加者、学生がいっしょに7班に分かれ、参加者全員でワークショップを行い、各班では活発な意見交換があり、様々な意見が発表された。

この地域の自然や素晴らしい地域活動と、地域外の様々な人とがつながることで、動いていきそうな発表が多くあった。今回の取組みが、これからの関係人口の創出につながることを期待できる内容となった。

【講義Ⅱ・公開講座「東沢地域の未来を考える」の様子】



### 芝の家等視察研修

項目	内容
参加者	第2期生5名
日時	平成29年11月2日から3日
場所	(1) ご近所ラボ新橋[東京都港区新橋6丁目4-2] (2) 芝の家[東京都港区芝3丁目26-10] (3) 慶應義塾大学三田キャンパス[東京都港区三田2丁目15-45] (4) 芝コミュニティはうす[東京都港区芝5丁目13-15]
内容	(1) ご近所ラボ新橋 対応者：加藤亮子氏、田淵瀬那氏 ご近所ラボ新橋は、港区が芝の家とあわせて運営する、「ご近所イノベーション活動」の実践を応援する実験室で、「地域と、誰かと、わたしのために、ここからはじまるご近所イノベーションをテーマに、身近なところか

ら地域や社会をちょっと良くしていくという場となっている。

運営体制は、港区と慶應義塾大学の協働事業となっており、事務局スタッフと曜日ごとに駐在する日替わりの「マスター」によって、日々の運営が行われている。伺った日は木曜日の「ハーブ&スパイス部」の活動日となっており、屋上菜園も見学することができた。

その後、スタッフから説明と質疑応答が行われ、交流の場づくりについて、学ぶことができた。

#### (2) 芝の家視察研修

対応者：坂倉杏介氏、若藤真依子氏

港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察した。「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。そんな昭和30年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業である。「あたたかい人と人とのつながり」とは、子どもがのびのびと遊び、お年寄りが安心して暮らせるように、まちに住み働く人たちがお互いに支えあえる関係。

事業の拠点である「芝の家」は、現代社会で見失いがちな、こうした暮らしのあたたかさを育てていくため、子ども、大人、お年寄り、住民、在勤・在学者、だれでも自由に出入りでき、住民と共にまちを考え創ることのできる場を提供することを目的としている。慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、運営を行っている。

こういった話を聞きながら、受講者同士や芝の家に来ていた地元の方と交流し、地域をつなぐ場所を体験することができた。

#### (3) 東京都市大学坂倉杏介研究室のゼミ見学

対応者：坂倉杏介氏、坂倉杏介研究室の学生たち

8月27日に実施した「人と地域をつなぐ事業」と「東京都市大学坂倉杏介研修室复合宿」の合同事業についての報告と、現在、学生が進めているプロジェクトについての説明と質疑応答を行った。

#### (4) ご近所イノベーション養成講座 学園祭（活動発表会）

基調講演：「ゆっくり、いそげ～GIVEからはじまるまちづくり～」

影山知明氏[クルミドコーヒー・胡桃堂喫茶店 店主]

全体コーディネーター：山口 覚氏[津屋崎ランチLLP代表]

ご近所イノベーションとは、地域に関わる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくりであり、「自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区から。」をテーマに、「ご近所イノベーション学校」として、想いをまちにつなげるさまざまな講座の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生み出す場の運営や、学校という名の「新しいかたちの中間支援のプラットフォーム」づくりを通して、多くのご近所イノベーションが起こる地域を目指しており、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携によって実施されている。

ご近所イノベーション学校では、自分の想いと持ち味を地域に活かし、

人と人、組織と組織をつなげ、創造的な課題解決を実現する〈人財〉の育成を目的に、大学や地域の資源を活用した各種の講座を実施しており、今回は第5期の活動発表の見学と、基調講演を受講し、GIVEからはじまるまちづくりについて学び、受講者も港区の参加者の方と意見交換を行うことができた。第5期の方々の発表と基調講演は受講者だけでなく、人と地域をつなぐ事業にとっても参考となった。

#### (5) まとめ

人と地域をつなぐ事業の講師である坂倉杏介氏の港区での取り組みを受講者の方と一っしょに体験することで、今までの講義内容を深く理解することができ、受講者の方が新たにこういったことに取組んでみたいという創発にもつながった。

また、イノベーション養成講座の受講者が実施されている「24時間トークカフェ」という他地域の事例を学ぶイベントで、佐賀県、長野県上田市、福岡県津屋崎に続き、「置賜」をテーマにしたいとの依頼があったことから、平成30年度の交流事業として検討を進める。

【芝の家等視察研修の様子】





講義Ⅲ「この地域に生き続けるために」

項目	内容
参加者	第2期生13名、第1期生4名
日時	平成30年3月3日(土) 13:00～17:00 4日(日) 9:30～17:30
場所	米沢市「スタジオ八百萬」
講義	<p>一日目は1年間を振り返るスライドショーを見て、チェックインを行い、今年度それぞれが参加した外部研修、芝の家視察研修のレポートをもとに気づきを共有した。講義で学んだことに加えて、参加していない人に伝えたいことから対話を行い、振り返りを聞きながら、参加者それぞれが感じたことを話しあった。</p> <p>参加者それぞれが「大切にしたい価値観、暮らし方、働き方」などを確認し、これまでとの違い、それを阻む背景を考える視点を踏まえて、参加者全員で共有を行った。</p> <p>二日目は前日の振り返りとチェックインのあとに「芝の家」の事例発表があり、そこから、前日に共有した「大切にしたい価値観、暮らし方、働き方」について対話を行い、これまでの価値観と、これからの価値観との対比について共有を行い、最後に参加者全員から2日間の振り返りを行い、講義Ⅲは終了した。来年度以降の「人と地域をつなぐ事業」につながる講義となった。</p>

【講義Ⅲ「この地域に生き続けるために」の様子】



地域活性化センター「土日集中セミナー」受講

項目	内容
参加者	第1期生8名
内容	<p>受講者が興味のあるセミナーを選択し受講した。</p> <p>(1) 未来を紡ぐ地域の教育力～地域が創る教育の仕組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成29年7月8日(土) 13時～18時 9日(日) 9時～12時30分</li> <li>・場 所：地域活性化センター大会議室(東京都中央区日本橋2-3-4)</li> <li>・受講者：1名</li> </ul> <p>(2) 住民が主役となる地域ビジネス～困りごとから生業～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成29年 9月30日(土) 13時～18時 10月 1日(日) 9時～12時</li> <li>・場 所：東京八重洲ホール301会議室(東京都中央区日本橋3-4-13)</li> <li>・受講者：1名</li> </ul> <p>(3) 暮らしの中から人と場のつながりを紡ぐ心豊かなまちおこし～津屋崎ランチと幸せのメカニズム～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程：平成29年10月14日(土) 13時～18時 15日(日) 9時～13時</li> <li>・場 所：地域活性化センター大会議室(東京都中央区日本橋2-3-4)</li> <li>・受講者：5名</li> </ul>

(4) やねだん東京塾～一歩踏み出す行動の秘訣～

・日 程：平成30年1月27日(土) 13時～18時  
28日(日) 9時～13時

・場 所：東京八重洲ホール301会議室(東京都中央区日本橋3-4-13)  
・受講者：1名

### 受講者自主事業「フォーラム八百萬」

項目	内容
日 時	第1回テーマ「子育て」：平成29年11月15日(水) 第2回テーマ「古民家」：平成30年 3月 2日(金)
場 所	米沢市「スタジオ八百萬」
内 容	人と地域をつなぐ事業の第1期生が「人と人とのつながりは、人生を、社会を豊かにする。」という想いを持って新しい企画を考え実施した。地域で「何か」に取り組んでいる「個人」や「企業」や「行政」の方に、共通のテーマでプレゼンテーションをして頂いて交流する会として、11月はテーマ「子育て」、3月はテーマ「古民家」として実施し、来年度以降も継続して実施する。

### 【受講者自主事業「フォーラム八百萬」の様子】



### 受講者感想

#### 【女性(米沢市)】

地域課題と向き合いアクションを起こすことを、いつの間にか行政などが提示している課題と照らし合わせて取り組み、事業実績や成果を決まったスケールで図ることに収めようとしていたのかもしれない。

自分自身で「何が課題で何をやりたいか、何をできるか」を考え、人と集い共有することで仲間が増え、予想もしなかった広がり生まれ、地域自体が面白くなっていく。

人と地域をつなぐ事業はそういう地域の作り方を、場を通して体感させてくれ、私は一年前よりずっと、地域と向き合うことが楽しくなり、置賜と置賜に住む人が愛おしくなっています。この事業で集まった回数でいえば、年に数回。全員揃った回数はゼロ。それなのに、ご一緒させていただいた1期生、2期生とは濃密な時間を過ごし、またこれから過ごせる手応えがあります。

「漠然と枠がない」のではなく「それぞれの想いや言動を既存の枠にはめない」というゆるふわとした括りは、最初こそどういう方向に進んでいくかわからない不安感もありましたが、一年経ってみて、いかに自分が「地域」や「やれること」を「枠」に収めたがっていたのか気付かされました。

2期生としては卒業とのことですが、置賜におさまらない、ゆるふわ・わくわく・どきどきな来年度以降も楽しみです。これからのスタートもよろしくをお願いします。

#### 【男性(米沢市)】

人と地域をつなぐ事業は家内から話しがやって来ました。「ゆるふわ」だからと言う事で軽い気持ちで参加しました。一見ゆるふわ見えて中身の内容はとても濃かった。

特に坂倉先生のテーマを決めグループに分かれてのセッション。その中ではいろんな意見が出てくる。その一つ一つが絡み合い可能性になって行く。具体例、人が集まり雑談の中で各々得意分野を言い合う。すると何か始めてみようかとなり夏祭りの縁日みたいなのが始まる。それを聞いた時とてもわくわくしました。一人では到底出来ない事が何人か集まると出来てしまう。

人と地域をつなぐ事業では一期生二期生をはじめ沢山の人たちと知り合う事が出来ました。普段の生活では知り合えない人たちばかりです。各々得意分野を活かし、お店屋さん始められる勢いです。また「やねだん東京塾」をきっかけに5月に鹿児島で開催される「やねだん故郷創生塾」に行きます。この事業に参加しなかったら「やねだん」さえも知らなかったことでしょう。

最後に人と地域を繋ぐ事業で人と人が繋がる大切さを学び、楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。そしてこの事業に参加出来た事に感謝致します。

#### 【女性(米沢市)】

『ゆる～い感じで良いので参加しませんか?』と声掛けしていただき、『ゆる～くでも良いなら、楽しそう!』と参加しました。勿論、訳も分からずに。

講義やワークには数えるくらいしか参加できませんでしたが、全体に受ける雰囲気は

(ゆるふわ) だけれど、みなさんのキレイのある討論を聞いていると、全然ゆる～くなくて、超ゆるく生きているであろう私には、二期生の皆さんが、次々に目の前が開けていく様子を見ていて、逆に応援したい気持ちになりました!

多分、私はまだあちこちに興味が向きすぎて定まらないのだと思います。ゆる～っと参加して、本来ならあり得ない多くの人との出逢いと刺激がありました。これで終わりではなく、これから先も繋がっていききたいです。有難うございました。そして宜しくお願いします。

#### 【女性（米沢市）】

1期生の方の活動を読んで、私も何かできるかなと思い参加を決意しました。いろんな分野の楽しい事を見たり聞いたりでき、お互いを認めあえる仲間ばかりでとても居心地が良かったです。

私は、不妊にお悩みの方が相談できる空間をつくりたいと考えています。フォーラム八百万で、発表する機会も頂き、たくさんのお会いをつむいでつないでもらい新しい世界を見つかることができました。

貴重な経験がたくさんできまだこれからも楽しいことがたくさん起こりそうです。思いきって参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

#### 【女性（高島町）】

1年前、何をするのかよく分からないまま、なんだか楽しそうな気がしてこの事業への参加を希望しました。

これまでの講座を振り返ってみると、自分のこれまでの生き方を振り返り、これからの生き方を考え直すような機会の連続だったと思います。

そして同じ場所で集まり、同じ課題に目を向け、共有した仲間ができたことは本当に幸せなことでした。

講座は一区切りしましたが、これからますますワクワクが発展していくと確信しています。それは、みんなが帰る場所、集える場所としてスタジオ八百万があるからだと思います。ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

#### 【女性（米沢市）】

地域の活動って、正直言って、どうしたらいいんだろうという、そのままの思いで参加しました。色々な意見を聞いたり、人と繋がったり、話をしたりする事で、自分のやりたい事が見つかったり、アイデアが浮かんだり、仲間と一緒に行動を起こす事の大切さを学びました。

#### 【男性（南陽市）】

いつもお世話になっている事務局の方から、人と地域への参加のお話をいただきました。その頃自分は忙しくて、参加するか迷っていましたが「この事業は本当にプラスになるから。」と言われ、その時は半信半疑でしたが参加させていただきました。

一年経って思うことは、本当にこの事業に参加して良かった！あの時言われた、自分にとってプラスになるからと言われこと、全てが現実になったことです。坂倉先生、前神さん、人と地域のメンバーに会えたこと、人と地域の研修で学んだことが自分にとってプラスになりました。

「人と地域をつなぐ事業」は、まさにこれですね！人と人が地域を繋いでいく、そして地域の輪として広がっていく！

これからも人と地域で学ばせていただいたことを活かし、繋がった皆さんとの絆に感謝をし、これからも頑張っていきたいと思います！

これからもどうぞ、よろしくお願い致します！ありがとうございました！

#### 【女性（長井市）】

この講座に参加するまで、私の中には「ゆるふわ」という言葉がなく、なんでも疲れるまでやる、やりたくなくてもやる、ということが多かったと気づきました。

日曜日の講座以外は、参加できませんでしたが、それでもいいと言ってくれたこの事業に、とっても感謝しています！そうでなければ、ギチギチとして窮屈だったろうなど。色々な気付きをもらえて、とても感謝しています！参加を決めた私も誉めたい！ありがとうございました。

#### 【男性（米沢市）】

人と地域をつなぐ事業、当初はどんなことをするのかパンフレットを見てもわからなかったのですが、参加してよかったです。

この講座の始まりが、自分をじっくり見つめ直すことから始まったとき、なぜ？と思いましたが、その先に人の話をじっくり聞くというステップを経て、なるほどと思いました。

坂倉先生の仮説、他者との「ゆるふわ」なつながりをつくる場に参加していれば、人は自分がやりたいことに気づき、それが実現するように行動を起こしやすくなるという仮説、は成り立つのではないかと考えています。私もそれを実証していける気がしています。これからもゆるふわな関係をよろしくお願いします。

#### 【男性（南陽市）】

人と地域をつなぐ事業に参加しようと思ったのは、もちろん魅力的な内容だったのは言うまでもないですが、東京に2回もいける！というのが一番のモチベーションだったといっても過言ではありません。

おかげさまで、とても楽しく参加させていただきました。

この事業に参加しなければなかった新しい出会いがあり、参加して本当に良かったなと思っています。これからも、このゆるふわなつながりを大切にしていきたいです。今後ともよろしくお願いします。

#### 【女性（高島町）】

県外出身者という事もあり、置賜地域の事をもっと知りたい、色々な人と繋がりたい、「つながる喜び、つながる楽しさ」をもっと実感できるようになりたいと思いこの講座に応募しました。研修や講義を通して「幸せとは何か」「地域づくりとは何か」など、あらためて考える良いきっかけとなりました。

そして何より新しく素敵な仲間達と出会えた事が嬉しいです。

”人と人が出会って、繋がって一人では到底考えもつかないような考えにたどり着く”何気ない会話の中から生まれる可能性を感じました。

最後の講義では皆さんの熱い思いを聞く事ができ、私も何らかの形で関わられたらいいなと思っています。1年間ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

#### 【女性（米沢市）】

何をするのかも分からないまま、楽しそう！と参加を決めました。参加して、どんどん自分の好きな事や、これがやりたい！ということが浮かんできたり思い出したりすることができました。

本当に素敵な仲間に出会えたことが嬉しかったです。強制ではない場所でこれから沢山の事が始まりそうでとても楽しみにしています！

#### 【女性（米沢市）】

1年前、気になる場所(八百万)のドアを開きました。…でも「あれ？場所しかないんだ…。」と残念な気持ちになりました。

事業に参加した1年後の今、「場がある」と思える自分がいます。人と出会える、つながる、広がる「場」があります。

「人と地域をつなぐ事業」は、「人と人をつなぐ事業」だと学ばせていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願いします！

#### 総括

#### 【坂倉 杏介 氏（講師）】

これまでの価値観と、これからの価値観の対比の深い話を踏まえて、最後は何人かの参加者の話し合いたいテーマで、テーブルに分かれたダイアログ。講座としては最後ですが「ここからはじまる」感じが満ち溢れた、とてもよい終わり方になりました。

これまでの地域づくりとは異なるもう一つのアプローチが大事なんじゃないかと、「ゆるふわ」な場を重ねてきましたが、まる2年が経ってそれがみんなの確信に変わりつつあるようです。

ここで大切にしたい価値観や働き方は、いまはまだ萌芽的で、決して誰にでも共感してもらえとは限らないものですが、きっと未来のスタンダードになる。その予兆を感じ取りながら、いまとこれからを探っていく感覚の場でした。

『U理論—過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術』のサブタイトルは「Leading from the Future as it Emerges. =生成されつつある未来からの導き」

まさに、置賜で体験していることそのものです。未来を「プレゼンシング」していくって、こういう感覚なんだと思い、私も貴重な経験をさせていただいています。

来年度は、港区芝地区との連携による「24時間トークカフェ」や坂倉ゼミの合宿も予定しています。さらなる交流がとても楽しみです。

#### おわりに

本組合では、平成28年度からふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的人材の育成活用事業として、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施しています。

坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」だけでなく、受講者の自発的な取組みに繋がったことは大きな成果となりました。

2年目となった今年度は新たな試みとして、坂倉杏介研究室の夏合宿と合同事業を実施し、また新しい交流が始まりました。

来年度は「24時間トークカフェ」として、東京都港区芝地区でまちづくりに取り組む方との交流も始まります。

これからも平成34年度まで、引き続き事業を実施するなかで、「気づき」や「きっかけ」を与える場であるとともに、受講者と共に、試行錯誤しながら置賜地域で生き生きと暮らしていくための方法を考えていく事業としていきたいと思っています。

最後に、受講していただいたみなさま、講師の坂倉杏介氏、事業の支援をいただいた（一財）地域活性化センターのみなさま、坂倉杏介研究室の学生のみなさま、人と地域をつなぐ事業に関わっていただいたみなさまに、深く感謝申し上げ、報告書の結びとします。

## 地域に飛び出す公務員ネットワーク（飛び出すネット）について

2008年10月、約80人からスタートし、現在約2,700人。

10,000人を目標に、「公務員参加型の地域おこし」、「地域を元気にする公務員の大運動」として始まった。代表は椎川忍さん（地域活性化センター理事長・初代総務省地域力創造審議官・元総務省自治財政局長）。

### 飛び出すネットの趣旨

公務員は、役所で公共的な仕事をしていますが、公共への関わり方はそれだけではないはず。NPO やボランティア、PTA、町内会、おやじの会・・・どんな活動でもいいから、公務員もアフターファイブや休日には、仕事外の活動に参画し、地域おこしや社会貢献をどんどんやろうじゃないか！こんな想いを持つ全国の公務員（元公務員含む）が、所属や役職を問わず参加しています。

### 飛び出すネットの目指すもの

一言でいうと「当事者意識を持つ」ことです。公務員は、自分たちのことを「官であって民でない」と思うあまり、「役所で働く人である以前に一住民である」ことになかなか気がつかず、世の中の人も「役所の人は民間感覚が乏しく融通が利かない、税金で食ってるんだから住民の言うことは何でも聞くべき」とステレオタイプで見がちです。頻繁に異動する公務員は、使命感よりその場の仕事をそつなくこなすことが優先され、“当事者意識”が欠如しがちです。本来、公務員は、地域で起こっている問題について、住民との対話を重ね、制度や組織の壁をいかに乗り越えていくべきかを一緒に考える姿勢が期待されています。異動に関係なく、継続的に地域活動に関わり、地域住民との人間関係を築いていく中で、「官の事情による官」という感覚を脱し、「民のための官」「民とともに歩む官」という感覚を体得し、まず公務員が、そしてすべての住民が地域で各々の役割を果たす“1億総当事者”の社会づくりを目指します。

### 飛び出すネットの活動内容

公務員としてではなく“一住民として”活動することを通じて感じる現場での気づき、行政の仕事のしかた、官民関係のあり方などについて、日々メーリングリストで議論しています。基本的には、それぞれに活動している公務員がメーリングリストでつながるネットワークで、「飛び出すネット」自体が何か活動する団体ではありませんが、各地で随時、オフ会、勉強会、飲み会などが開催されています。

また、平成23年3月17日には「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」が発足し、首長連合サミットが開催されています。

### ※入会希望はこちらまで

tobidasu-kanrisha@jcrd.jp(1.氏名 2.所属(団体+所属部署) 3.登録アドレスをお知らせください。Gmail や Yahoo メールでも登録可能です。)「地域」「飛び出す」で検索(^)/地域活性化センターHP→刊行物・情報提供→地域に飛び出す公務員ネットワーク